

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
秋元 祥治	あきもと しょうじ	NPO法人G-net/岡崎ビジネスサポートセンター OKa-Biz/滋賀大学	<p>▼G-net NPO法人G-netは、岐阜を拠点に15年前より、中小企業の社長の右腕として熱意ある若者を半年間右腕として送り込む実践型インターンシップや、「みぎうで」就職支援を行っています。高校「政治経済」の教科書にも掲載されています。年間で1万人を越える若者に地域の中小企業の魅力を伝え、約100名が半年間等の実践型インターンシップに参画しています。「若者が選ぶ魅力的な中小企業100選」といった冊子刊行を含め、中小企業への「みぎうで」候補としての就職支援も展開しています。</p> <p>▼OKa-Biz OKa-Bizは岡崎市・岡崎商工会議所が設置した「売上アップに特化」した中小企業支援センターです。富士市産業支援センター・f-Bizをモデルに全国最年少センター長として、成果続出から相談は1ヶ月半待ちに。開設2年で当初目標の300%を越える来訪相談件数や、年間約50件の視察受け入れ、首相官邸での表彰や中企庁長官も来訪。f-Biz・OKa-Bizをモデルに、各地で新たな産業支援センターの立ち上げがH28年度以降続々と予定されています。</p>
浅尾 均	あさお ひとし	有限会社 浅尾計画事務所	<p>全国各地における地域振興・観光振興・交流人口の増加などの取り組みについての課題、問題点、疑問に対するの解決策や、それを導き出すためのアイデアの提示、あるいは解決策を導き出すためのアドバイス、ワークショップの支援、コンサルティング、プランニングなどを仕事としています。</p> <p>現在は、「インバウンド」、「新たな広域連携」、「人材育成」、「ニューツーリズム」などをテーマに、各地にて実践的な事業に関わっています。</p>
朝廣 佳子	あさひろよしこ	株式会社社説売奈良ライフ	奈良の新しい観光資源の創出に邁進し、なら燈花会、平城遷都祭、平城京天平祭などを立ち上げてきた。また、市民が創るまちづくりを主軸とし、ボランティアでイベントを行っている。
東 朋治	あずま ともはる	有限会社 協働研究所	阪神大震災で壊滅的な被害を被った神戸・新長田地区において、タウンマネージャーとして11年間商店街の復旧復興事業に取り組んできました。再開発エリアの商業ビルの管理運営やテナントリーシング、商店街および商業ビル活性化イベント、地域活性化を牽引するまちづくり会社(株神戸ながたTMO)の運営等を担ってきました。現在は(有)協働研究所に移り、商店街や中心市街地の活性化ビジョン策定、商業者リーダーの育成事業に加え、タウンマネージャーの育成や東日本大震災被災商業地域(岩手県宮古市中心市街地・岩手県釜石市鶴住居地区)の復旧復興事業に取り組んでいます。また、日頃からの備えとしてワークショップ等を通じて地域の安全・安心マップ作成にも各所で取り組んでいます。
阿部 眞一	あべ しんいち	岩村田本町商店街振興組合	空き店舗対策として、様々な事業を実践している。アントレプレナーを育成する「本町手仕事村」コミュニティビジネスのモデルとされる、商店街直営の惣菜店「本町おかず市場」子育て支援事業から生まれた、商店街直営の学習塾「岩村田寺子屋塾」、短時間託児や子育てサロンの拠点「子育てお助け村」さらには商学連携の「高校生チャレンジショップ」地域ブランド創生の「三月九日青春食堂」など、直営12事業を1理事1事業制を敷いて人材育成を展開。大型集積のイオンとは顧客の視点から共存共栄を図ることに転換、電子マネー「佐久っ子ワオンカード」を基軸に連携。全国的にも注目され協力体制をとる。今後はさらに地域コミュニティの担い手としての商店街のあり方を目指して、中小企業庁「ちいさな企業成長本部」などで、今後の「住み良いまちづくりの商店街」のあり方を提言。全国に講演活動の場も広げている。
飯倉 清太	いいくら きよた	特定非営利活動法人 サブライズ	<p>PDCAではなく「D」から始めるフィールドワーク「DPDCA」 「若者を行う地域活性」を軸に展開している</p> <p>現在の地方問題には「高齢化」「少子化」「人口流出」など様々な問題が複合的に絡んでいます。これを是正するには短期的な目標と中長期の目標設定が必要となります。そこで私たちNPOサブライズでは静岡県東部伊豆を中心に高校生や大学生と取り組む地域活性を実施しています。大きな目標を掲げることも大事ですが実際はスモールスタートがとて重要となります。様々なディスカッションやセミナーを開催しつつ、最短の地域活性と行動力を育成するために「清掃活動」を中心とした活動にてリーダー育成を実施。また現場だからこそ得ることの出来る「連絡調整能力」「遂行能力」「討論能力」「コミュニケーション能力」などを学んでいます。これを基にして地域の素材を再確認し、編集そしてレビューを付けて再発信行う事を実施しています</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
石上 僚	いしがみ りょう	株式会社みらいもりやま21	商店街活性化三種の神器と言われる「100円商店街・バル・まちゼミ」をいち早く導入。街コンと呼ばれるようになったイベントも西日本初で実施しました。
伊津田 崇	いつた たかし	株式会社アイレック	<p>&lt;まちづくり、タウンマネジメント&gt; 中心市街地活性化協議会や行政等、関係者へのヒアリングを通して抱えている課題を把握し、支援テーマに基づいて協議会設立支援や協議会・まちづくり会社の運営・管理体制強化、事業推進のための勉強会・シンポジウム等の企画・運営・コーディネートを行い、協議会構成員や地域住民等の合意形成や個別事業の具体化等を図る。【長浜市、奈良市、田辺市等を支援】</p> <p>&lt;商店街活性化ビジョン策定支援&gt; 商店街の強み・特徴や地域資源を生かし、3~5年後の将来像を見据えて活性化ビジョンを掲げ、具体的取組事業を構築するにあたり支援・指導を行う。【大津市、大村市、中津川市、瑞浪市等】</p> <p>&lt;地域ブランド創出支援&gt; 地域資源の発見・発掘を行い、地域活性化への起爆剤となるように育成していくとともに、これらの資源を活かしてまちづくりにつなげていく。【豊岡市、出石そば、湖東地域等を支援】</p> <p>&lt;一店逸品運動等個店活性化支援&gt; 一店逸品運動の推進による個店の品揃えや陳列等の指導を通して、個店を活性化させることにより、SC・商店街全体の魅力アップを図る。【大和高田市、大和郡山市、尼崎市、神戸市・新長田地区、豊田市、大村市、松江市等】</p>
伊藤 数子	いとう かずこ	(株)パステララボ／特定非営利活動法人STAND	車いす陸上競技の観戦が契機となり、2003年から電動車椅子サッカーなど競技大会のインターネットライブ中継を開始。誰もが明るく豊かに暮らす社会を実現するための「ユニバーサルコミュニケーション活動」のため、05年NPO法人STANDを設立し障害者スポーツ事業を本格始動させる。現在、ウェブサイト「挑戦者たち」の編集長として障害者スポーツの魅力を配信。また、スポーツイベントや体験会を開催している。
伊東 将志	いとう まさし	夢古道おわせ	<p>官民一体となった観光交流事業「夢古道おわせ」の管理運営。</p> <p>①地元集落のお母ちゃんをグループ化し、各地にチームを形成。 集落の食文化の伝承をテーマにランチバイキングによる交流人口増加を図る。</p> <p>②間伐材活用によるイベント「全国一斉100のありがとう風呂」を主催。 全国47都道府県400カ所以上の温浴施設で導入実績あり。 地域資源であり、後継者不足等で課題にもなっている一次産業の問題に独自の手法でアプローチし、全国各地より同時多発的にメディア掲載することを得意としております。</p> <p>また、都市部の若者×地域の漁村・農村集落をテーマに人材のマッチングも行う。 全国の自治体や商工会・商工会議所において官民一体のまちづくりや地域資源活用による取組みへの支援も行っています。</p>
井上 拓磨	いのうえ たくま	HanaLab./一般社団法人ループサンパチ	<p>2012年に長野県上田市に長野県初となるコワーキングスペースHanaLab.を開設。現在は上田市内に3店舗有し、総床面積1000坪の日本最大規模のコワーキングスペースを運営している。また、単純なコワーキングスペースにとどまらず、全国的にも珍しい、行政、商工会議所や経済団体と連携し様々な地域課題に取組んでいる。</p> <p>&lt;主な取組み事例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き店舗活用したコワーキングスペースを3カ所開設</li> <li>・上田市・商工会議所・産学官コーディネート組織と連携した創業支援</li> <li>・インターンを活用した学生の社会との接点作り</li> <li>・子育て中の女性の社会復帰支援</li> <li>・移住定住に関する取組み</li> </ul>
井原 満明	いはら みつあき	株地域計画研究所	<p>①衰退する地域の再生を図るために、ライフスタイルの価値観を変えるグリーンツーリズムと地域の資源を地域で生かすエコミュージアムの融合展開(着地型観光)。②高齢者の手仕事に光をあてた「マイスター」制度の創設(年金+α)。③高齢者が中心となって集落ワークショップを開催し、地域で高齢者を支えあう仕組みづくり(飯豊町で2009年～現在まで)。④ローカル線の活性化と沿線集落の再生を一体化し各駅を拠点に駅カフェの開催、駅から集落を巡るフットパスなどの地域づくり。⑤周辺地域(農村部)との連携を前提に住民参加協働型第3セクター「まちづくり会社」を設立(中心商店街活性化)。⑥2010年9月から長野県木島平村に招聘され農村文明塾の運営に取組む。首都圏等の学生との連携を図る農村版大学コンソーシアム、小規模自治体職員を対象に行政コンソーシアム、全国村長サミットの開催、住民の学ぶ場「農村学講座」等を実施(～2015年3月)。⑦佐渡市が提唱する「福祉版コンパクトシティ」の取組助言。⑧高齢社会に向けて「複数の高齢者が一人の若者を育てる」を合言葉に団塊世代が築いてきた「暮らしと生業の小さな社会資本」を若者に譲り渡す社会を目指した地域づくりを提唱。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
今村 まゆみ	いまむら まゆみ	観光まちづくりカウンセラー	<p>14年間にわたる国内旅行雑誌「じゃらん」の編集経験をいかし、その土地ならではの魅力ある資源を発掘し、観光素材へと仕上げ、戦略的にマスコミにPRすることを得意とする。消費者やマスコミ、トレンドを意識した「コンセプト」「ターゲット」「話題になる観光開発」にポイントを置き、地域ブランドの構築から観光資源の開発にかかわるアドバイスや組織づくりに取り組んでいる。</p> <p>【実績】20～30代独身女性をターゲットにした観光コースや体験プログラム開発／ペット同伴者向けのルートコースやサービス開発／50～60代のアクティブ女性向けの観光コースや体験プログラム開発／地域の素材を使った特産品開発／マスコミ向けのプロモーションツアー／広域連携での観光開発・PR事業／地域のキーマンを育てるための職員研修／効果的な情報発信・地域ブランドに関する講演(※独自の視点で対象エリアへのアドバイスを盛り込んでいる点が好評)</p>
内田 友紀	うちだ ゆき	株式会社リ・パブリック	<p>■“中規模都市・福井市(人口約27万人)にて、地域をこえた人の流れと仕事をつくる”をテーマに「未来につなぐ ふくい魅える化プロジェクト   make.f」プロジェクトリーダー。産官学の連携プロジェクト(2016-)。</p> <p>・福井・関東・関西の人々をつなぎ、世代ごとの人の流れや新たな時代の働きかたをつくる取り組みを実施。また、ウェブ・タブloid・映像、SNSなど複数メディアによる、参加型のプロジェクトアーカイブと発信を実施。</p> <p>□小さなデザインの教室・XSCHOOL プログラムディレクター プロジェクト・事業を立ち上げながら、学びと実践を繰り返すデザインの教室を企画・運営。次代のデザイナーを育て、地域の産業をアップデートすることを目指す。(make.fの一環)</p> <p>■福岡県福岡市(人口約150万人)にて、産官学の連携のもと、社会課題を源泉にビジネスを生むインキュベーションプログラムの立ち上げ、企画運営を担う(2013-2016)。参加者は、福岡市民と、東京・九州を中心にした大手企業の研究開発部門。デンマークデザインセンター、アムステルダムメディアラボなどとも連携。</p> <p>■成熟企業にて連続的イノベーションを起こす人材・シリアルイノベーター研究会を、国内の複数企業の研究開発部門とともに実施(2013-2015)。アメリカ・イリノイ大学工学部教授らによる研究と連携。株式会社リ・パブリックのメンバーによる監訳本「シリアル・イノベーター - 非シリコンバレー型 イノベーションの流儀」がベースとなる。本研究により見出された イノベーターが育つ環境・関係性などの要素を、地域にも応用し、プロジェクト設計に取り組む。</p> <p>■“街の人”を主役にした新しいガイドブック、COMMUNITY TRAVEL GUIDE「福井人」の企画・出版にプロジェクト発起人の一人として関わる(2013)。掲載する人の選定・取材・執筆・資金集めまで、徹底して参加型を実現し、オンラインを含めて数千人が関わった。</p> <p>■ブラジル州政府の都市開発局にインターンシップ参加(2012)。国連サステナブル・シティ・アライアンスの州適用に向けた事例研究、導入メソッド開発、接続プログラムの検討等を行った。</p>
大岡 千紘	おおおか ちひろ	東栄町役場振興課	<p>地域の人と行政・外部をつなぐ橋渡しを担う。特にビューティーツーリズム「naori」事業では、地元企業と連携し、美をテーマにしたツーリズムを立上げ、地域資源の新たな可能性を開拓。・女性観光客の誘致。地域に新たな観光モデルを生み出す。・全国的なPR。美の地産地消という新たな地域資源活用の取り組み。・手作りコスメティックインストラクターとして、地域資源を用いたコスメの体験指導。など、美をテーマに観光・交流の開拓が期待できる。またその企画を実行に至るまでの地域との関係づくりについて、その実績・ノウハウを他地域へ拡大することが期待される。地域のアイデアを行政と連携しながら、外部視点を交えて実現に向けて支援。</p>
大下 茂	おおしも しげる	帝京大学経済学部観光経営学科／(株)KITABA	<p>『集客』を研究テーマとして、観光計画、地域活性化計画、中心市街地活性化計画など、地域づくり、まちづくりの分野において、『論と行動』をテーマに実践的な取り組み展開を図っている。地域に軸足を置いて、地域の方々と一緒になって「地域を元気にするための方法」を実践する地域密着型の活動形態のため、活動エリアは首都圏近郊に限られている。</p> <p>主な実績は、東京都品川区観光アクションプラン、大田区観光振興プランに関わるとともに、両区の広域観光まちづくり事業スーパーバイザーを平成20～22年度より努める(現在はアドバイザー)。また、平成24年度より両国地区観光まちづくりランドデザイン等の委員長を努める他、東京都観光部や特別区協議会の講座・シンポジウム等に関わっている。千葉県内では、佐原、木更津、いすみ、久留里、市川中山、御宿、浦安、四街道、習志野、勝浦、長生村、九十九里、多古町等、群馬県では、みどり市大間々、甘楽町、伊勢崎市境島村、下仁田町、みなかみ町、渋川市伊香保温泉の観光まちづくりに関わっている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
大谷 鮎子	おおたに あゆこ	NPO法人 九州キラキラみなとネットワーク	・地球環境とエネルギー問題 ・みなとまちづくりと女性の参画
大宮 透	おおみや とおる	小布施町	小布施町では、特に、行政と地域住民、地域外の住民(特に若者)などの様々なアクターを繋ぎ、新しい価値を創造するための活動を展開している。プロジェクトをベースとして、議論の場をつくり、多様な視点を持ち寄って、若者をターゲットにしたまちづくりプロジェクトを企画。  2012年からは、全国から集まった200名の若者が日本の未来を語る場づくり「小布施若者会議」を企画運営するとともに、2013年には、ハーバード大学をはじめとする世界中の大学生とともに、高校生を対象としたサマーキャンプ「HLAB OBUSE」の企画運営をコーディネートしている。また、それらの取り組みを積極的に地域外に発信しながら、「若者が活躍できる町」としての小布施町のブランドづくりと、それを実現するための制度構築を行政と連携しながら推進している
大宮 登	おおみや のぼる	高崎経済大学 地域政策学部	組織における実務的な能力開発や自己啓発、地域に根ざした住民の組織づくり等について、地域づくりと住民組織の関わりからフィールドワーク中心に研究。特に、NPO法人DNAの代表顧問、さくらプロジェクトの会会長、食品リサイクルるーぶ事業会長等の活動も推進している。
岡崎 正信	おかざき まさのぶ	オガールプラザ株式会社／一般社団法人公民連携事業機構	岩手県紫波町が進めるオガールプロジェクトのキーパーソンとして、紫波町の公民連携事業を企画推進している。 東日本大震災被災地において、まちづくり関連の各種委員を担い復興に関わっている。 一般社団法人公民連携事業機構を立ち上げ、岩手県紫波町で行われているオガールプロジェクトをモデルに、公民合築施設を全国に水平展開できるよう各地で講演シンポジウムなどを開催している。
岡田 昭人	おかだ あきと	(社)コミュニティネットワーク協会／早稲田大学都市・地域研究所	埼玉県上尾市の密集住宅地再生事業においては連鎖型の共同建替えの4プロジェクトに関わり、その後墨田区向島地区の密集住宅市街地でのまちづくり活動や鳥取市中心市街地での老朽化した防火建築帯のコンバージョン・リノベーションに向けた修復改善型の整備計画策定に携わっている。 近年は福祉、医療関係者と連携しながら、高齢者の住居・生活改善支援及びLLPやLLCを立ち上げ、住まいづくりの主体づくりの支援をしている。また社団法人コミュニティネットワーク協会が運営するコミュニティファンド研究会で、新しい市民ファンドの仕組みに向けて調査・研究、提案を行っている。 花巻市東和町では、商店主や高齢居住者が地域で支え合いながら暮らすための共同店舗や住まいづくりを様々な制度を活用した共同建替え事業支援やエリアマネジメントを志向するまちづく会社を支援しながら、空き地空き家を活用した美術展や自律的財源を確保するためのまちづくりファンドの組成など地域再生に向けての実践活動を行っている。
岡田 基幸	おかだ もとゆき	財団法人上田繊維科学振興会 (AREC)	地方における新事業創出、新産業創出は、日本の急務の課題ではありますが、未だ多くの課題を抱えているのが現状です。また、地方では、首都圏・大都市圏の成功モデルの単なる真似ごとだけでは解決できないことが多く、地方都市独自の事業創出、新産業創出への仕掛け・取組みが必要です。 上田市産学官連携支援施設(浅間リサーチエクステンションセンター(AREC))は、信州大学との産学官連携による新事業創出、新産業創出を目指し、上田市が文部科学省の研究交流促進法の認定と経済産業省の補助金を受け、2002年に信州大学内に設置した施設です。早や8年を経過し、地方都市発の数多くの新事業が生まれてきております。さらには、「設置以来満室」「地域中小企業180社超の有料制会員組織の構築」「事務局少人数体制」により、設置主体の公的支援にたよらない自立運営を可能にしております。「地方」という厳しい環境下ではありますが、人財をはじめとした地域の素材をじゅうぶんに活かして最高のパフォーマンスを出し続けています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
岡部 友彦	おかべ ともひこ	コトラボ合同会社	<p>12年間の地域活性化事業のノウハウを踏まえ、2012年度より愛媛県松山市三津浜地区にて地域活性化事業をとして空き家バンク、空き家活用事業、コミュニティアセット事業を行っている。</p> <p>弊社では、地域に直接入り、地域の人々、企業とともにボランティアではなく、事業としてのまちづくり事業の構築を行っています。</p> <p>【街や地域の新しいイメージを創り出す】 まちづくりや地域活性化プロジェクトなど、地域の活動には、様々な人の協力が必要となります。プロジェクト自体を多くの人々に知ってもらうためにも、発信手法の検討は欠かせません。</p> <p>コトラボでは、イギリスの都市再生で行われているプロジェクトのプロモーションムービーにならって、街の現状や眠っている「資源」を可視化させたり、統計データを一目で分かるようなヴィジュアル化などを取り込みながら、プロジェクトやその地域に興味をもってもらえるような映像を創っています。http://vimeo.com/52294907</p> <p>【地域の空き家と借りたい人とをマッチング】 2013年より愛媛県松山市より地域活性化事業を受託。築150年の古民家なども多く残っている港町三津浜地区の空き家を一軒一軒調査し活用可能な物件を収集、三津浜町屋バンクと称して広く利用者を募る。http://mitsuhamaru.com</p> <p>【地域資源を活用した地場産業づくり】 日雇労働者の街であった横浜寿町の空き部屋を建物所有者と連携して旅行者向け宿として改装し、事業として行いつつ新しい人の流れを創り出している。2004年から横浜寿町を拠点に街の資源を有効活用し、街に新たな産業を創る取り組みを行っている。横浜では地域にある簡易宿泊所の空き家を活用し旅行者向け安宿に変貌させたYOKOHAMA HOSTEL VILLAGEを運営している。</p>
折谷 久美子	おりたに くみこ	NPO法人 スプリングボードユニティ21	<p>地域の人や行政の人、様々な人と協力しながら、人づくりまちづくりを通じて、住んでいる人も訪れる人も函館のまちを好きになってもらいたいと活動しています。</p> <p>○みなとまちづくりの活動では、函館イカマイスター取得により函館市の魚であるイカの出前講座に力を入れています。</p> <p>○おもてなしの気持ちをこめて、国道5号函館新道、道道函館空港線、JR函館駅などで植栽維持活動を春から秋まで実施。函館新道の活動では、平成22年5月「全国みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」受賞。</p> <p>○手作りキャンドルで道路沿線を飾る「シーニックdeナイト」で、地域一体となって冬の函館観光を楽しく盛り上げています。</p>
甲斐 寛人	かい ひろと	ランドブレイン株式会社	<p>中心市街地商業活性化アドバイザーとして、中心市街地活性化基本計画の作成、中心市街地活性化協議会の運営に関するアドバイス等を行ってきました。また、中心市街地タウンマネジャーとして現場における実践的な活動も行ってきました。また、商店街活性化アドバイザーとして、商店街の活性化に関するアドバイスも行っています。</p> <p>地方創生の人口ビジョン・総合戦略の策定支援や、総合戦略に基づく地方創生のための事業の立ち上げ支援に携わっています。</p>
柿崎 邦雄	かきざき くにお	元気な街づくりコンサルタント	<p>○改正街づくり三法による街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本計画策定に関する取り組みへのアドバイス</li> <li>・法定協議会及び街づくり会社設立に関する取り組みへのアドバイス</li> </ul> <p>○改正街づくり三法に基づかない街づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街づくりへの基本的な取り組み方法へのアドバイス</li> <li>・ソフト・ハード事業の取り組み方法へのアドバイス</li> <li>・人づくりから始める街づくりの取り組み方法へのアドバイス</li> </ul>
風間 教司	かざま きょうじ	有限会社 風間総合サービス	<p>自宅を改装しカフェ「饗茶庵」をオープン以降、元連れ込み宿や築100年の商家、など廃屋をリノベーションしたカフェ「日光珈琲 玉藻小路」「日光珈琲 朱雀」「日光珈琲 御用邸通」と北欧服飾雑貨店を栃木県内にて展開。珈琲の焙煎、卸、カフェ&amp;フードビジネスコンサルティングを行う。</p> <p>また、起業家育成事業「ネコヤド大市」、商業者による地域活性プロジェクト「DANNAVISION」を手がけ、地域づくりと担い手づくりを行っている。</p> <p>2015年より日光例幣使街道鹿沼宿旅館再生プロジェクト「CICACU」始動。現在、旅館業のオーナーでもある。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
春日 隆司	かすが たかし	特定非営利法人しもかわ森林未来研究所(北海道下川町)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地方創生総合戦略</li> <li>○森林/バイオマス活用による地域振興</li> <li>○二酸化炭素吸収・削減クレジット創造</li> <li>○環境未来都市</li> <li>○自然資本</li> <li>○持続可能な開発目標(SDGs)準拠のまちづくり</li> <li>○その他地域振興全般</li> </ul>
加藤 慈然	かとう じねん	一般社団法人 尾道観光協会 / 妙宣寺	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 平成12年 本立寺かぐや姫美術館を開設</li> <li>【尾道市 平成16年度】</li> <li>○ ユビキタス観光ガイド「どこでも博物館」システム構築に参画</li> <li>【内閣府 平成16年度】</li> <li>○ 内閣府より受託事業「都市再生モデル調査事業」に参画</li> <li>【文部科学省 平成18年度～平成19年度】</li> <li>○ 地域ボランティア活動推進事業のセミナーとWS全20回</li> <li>【総務省 平成18年度～平成20年度】</li> <li>○ 総務省より受託事業「情報通信月間」プログラム作成</li> <li>【国土交通省 平成19年度】</li> <li>○ 国土交通省より受託事業「まちめぐりナビ・プロジェクト」プログラム作成</li> <li>【国土交通省 平成20年度～平成21年度】</li> <li>○ 国土交通省より受託事業「しまなみ海道自転車活用社会実験」プログラム作成</li> <li>【国土交通省 平成22年度～現在】</li> <li>○しまなみ海道観光圏事業のWS全8回</li> <li>【広島県 平成23年度】</li> <li>○ 緊急雇用対策事業「サイクリングガイド養成事業」プログラム作成</li> <li>【国土交通省 平成24年度～現在】</li> <li>○ 広島県自治体職員研修 講師</li> <li>【国土交通省 平成25年度】</li> <li>○ 国道54号等尾道松江線沿線市町活性化WS 講師3回</li> <li>【経済産業省 平成25年度】</li> <li>○ クールジャパンの芽「かぐや姫の残り香」プロジェクト 専門講師</li> </ul>
加藤 慎一郎	かとう しんいちろう	(株)加藤地域政策プロデュース	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1)まちづくりに係わる企画・提案</li> <li>(2)集客施設整備(マグネット機能の強化、開発、オペレーション)</li> <li>(3)地域活性化ソフト事業(集客・回遊ソフト事業、空き店舗・空地活用、地域資源活用)</li> <li>(4)地域活性化計画づくり(課題抽出と課題解決に向けた活性化計画づくり、PDCAサイクルによるタウンマネジメントの精度向上)</li> <li>(5)地域活性化組織づくり(発展段階に応じた組織づくり、中心市街地活性化協議会の設立・運営)</li> </ul>
加藤 せい子	かとう せいこ	NPO法人吉備野工房ちみち/千道株式会社	<p>「一人ひとりの夢が実現し希望と笑顔が生まれ幸せの和が広がる」を目的を達成するために「一人一品」の考え方を元に、一人ひとりの夢を実現させる場として「みちくさ小道」の運営を行っている。※一人一品とは、その人の一番の輝き多様なステークホルダーの集合体に特徴である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>★みちくさ小道から派生して出来た取組</li> <li>・中山間の地域資源発掘</li> <li>・里山×子育て体験</li> <li>・商品の販路開拓</li> <li>・地域文化の伝承</li> <li>・人財育成(インターンシップ、研修事業)</li> <li>・仕組みづくり(小・中・高校生をつなぐ)</li> <li>・健康増進</li> <li>・防災・見守り</li> <li>・交流観光体験プログラム</li> <li>★みちくさ小道の仲間たち</li> <li>・湯原っしい(真庭市)・大分みちくさ小道(大分市)・伊達ルネッサンス(亶理町、山元町、新地町)・石巻に恋しちゃった(石巻市)・Re:us world(気仙沼市唐桑)・さんりくさんぼ(宮城県気仙沼市本吉地域)・かんぱく(香川県観音寺市)・เทศกาลของดีเมืองสุรินทร์(タイ国スリン県)</li> <li>★JICA研修プログラムとしても活用(アジア太平洋大学×みちくさ小道)</li> <li>7年間で45カ国(アジア、アフリカ、アンデス地域)400名近い行政官、実施関係者、生産者が地域開発に必要なコミュニティ・キャパシティ開発を学ぶ。</li> </ul>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
加藤 誠	かとう まこと	株式会社ジェイティービー	近年ツーリズム産業を取り巻く環境は急速に変化しており、従来型のツアースタイルではマーケットニーズに応えることは不可能となっています。旅行会社が主導してきた発地型のマストツーリズムから、地域社会が主体となる着地型のニューツーリズムへと時代が移りつつあり、暮らしや文化など地域固有の魅力を生かした旅の創出が求められています。 JTBグループでは、事業ドメインを総合旅行業から「交流文化事業」に進化させ、国の成長戦略と位置づけられた観光を基軸とした交流人口拡大による地域活性化を推進しております。これまでの発地でのマーケティング活動にとどまらず、着地においては地域行政・住民を巻き込んだネットワークの構築、地域魅力を生かした旅行商品の開発・流通支援、地域ブランディング、観光まちづくり、など、地域の皆様とともに地域視点での取り組みを全国各地で進めております。観光振興プランの立案、人材育成、着地型旅行商品の開発等、地域のマネジメント活動に積極的に取り組んでおります。
川崎 克寛	かわさき かつひろ	E-planning つなプロ気仙沼	2010年より内閣府地域社会雇用創造事業(ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスのインターンシップ事業)のメンターとして関わり、四国の学生と地域企業とのマッチング・コーディネート活動に携わる。また、四国経済産業局主催の企業向けセミナーにおいて、コーディネーターとして参加。2011年3月から、東北での支援活動「つなプロ」に参画し、エリアマネージャーとして、現地にて地域住民の生活サポート、ボランティアスタッフのコーディネート活動のほか、同年6月より、ソーシャルビジネスネットワーク大学四国キャンパスの復興支援インターンシップ事業である、岩手県陸前高田市で行われたT-ACT事業にも参画し、現地ディレクターとして、50名を超える学生を募集し、地域再生プロジェクトのコーディネート活動を行っている。
河崎 妙子	かわさき たえこ	(有)河崎妙子事務所	有限会社 河崎妙子事務所はコンセプト作り、店舗レイアウト、メニュー開発、スタッフ教育、広報活動など、1店舗を立ち上げるためのノウハウを提供。特に女性の立場から見た店舗のプロデュースやメニュー開発を得意としています。主な活動範囲は、 ①「食」に関すること→食材研究、商品開発、人材教育、料理講習会の実施等 ②「観光・交流」に関すること→コンセプトに合わせた商品開発、店舗の立ち上げ等 ③「学び」に関すること→食材研究、ワイン、チーズ、スパイス等の使い方や知識についての勉強会を実施、薬膳料理の勉強会等、各地の食材を生かした幅広い講習会を実施
かわべ まゆみ	かわべ まゆみ	いまぬネット株式会社 / kawavex	1空き家活用・定住促進 2コミュニティ・ビジネス開発支援 3地域マーケティング、特産品開発 4地域のIT化促進、ネット通販 5交流促進、田舎ツーリズム
岸川 政之	きしかわ まさゆき	百五銀行／皇學館大学／未来の大人応援プロジェクト	三重県多気町にある相可高等学校食物調理科調理クラブが運営する高校生レストラン「まごの店」やその先輩が運営する惣菜とお弁当の店、(株)相可フードネット「せんぱいの店」など、コミュニティビジネスの手法を取り入れた地域おこしに取り組む。これらの取り組みは、国土交通省ふるさと手づくり賞大賞、総務大臣優秀賞など多くの賞を受賞し、2011年5月からは「高校生レストラン」と題しテレビドラマ化もされ話題を呼んでいる。 また、高校生などの若者(未来の大人)たちと地域ビジネス創出事業(Social Business Project、略称:SBP)にも取り組んでいる。SBPは、地域の課題をビジネスの手法を用いて解決していこうというもの。具体的には、自分たちのまちの魅力・地域資源(ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等)を知って地元愛が育ち、地域資源を生かしたビジネスを立ちあげ、自ら働く場を確保することで地域に残れる仕組みをつくっていくもの。高校生レストラン「まごの店」等を先進事例に、2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPを立ち上げ、その後このような地域に根ざした取組が全国に広がっている。そして、SBP活動に取り組む高校生が集い研鑽する”全国高校生交流フェア”は、2017年から文部科学省の共済事業となっている。 現在は地方の活性化をテーマに、全国各地で「まちづくり」、「商品開発」、「生き方・考え方のヒント」などをテーマにした講演やワークショップも多数開催するとともに、市町村、NPOなどのアドバイザーとしても活躍している。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
木田 悟	きだ さとる	(一財)日本スポーツコミッション/ 東京大学	<p>●設立目的 (一財)日本スポーツコミッションは、スポーツをまちづくりや地域の活性化の手段として捉え、スポーツの有する多様な機能を活用したまちづくりや地域の活性化に資する調査研究や活動を行うことを目的として設立しました。</p> <p>●活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する調査研究:自治体等からの調査等の受託</li> <li>・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資するセミナー・研究会の開催:スポーツコミッション研究会・サイクリズム推進研究会の開催</li> <li>・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する本・冊子等の発刊</li> <li>・スポーツを活かしたまちづくりや地域活性化に資する会員事業:スポーツコミッション連絡協議会の運営</li> <li>・商標である「スポーツコミッション」の的確な使用に向けた講演や執筆活動等の実施</li> </ul>
北村 省一	きたむら しょういち	株式会社 サイテック	<p>【地域づくり(人材育成・産業振興)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興(人材育成、産業振興)等の観点から公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</li> </ul> <p>【自然資源調査】</p> <p>各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川(河川水辺の国勢調査)などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p> <p>【地域産業支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会における企業のファインダビリティ(見つけてもらうこと)をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり(Smart-PR等)、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり等を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</li> </ul>
吉川 真嗣	きっかわ しんじ	村上町屋商人会/チーム黒塚プロジェクト/むらかみ町屋再生プロジェクト	<p>新潟県村上市は歴史ある城下町。平成9年、大規模な近代化計画が浮上。この中、町を守るための活動を開始した。それまで日陰の存在だった村上の古い町屋のもつ価値に光を当てる取り組みだった。町屋を活かし街の賑わいを取り戻せばきっと近代化を食い止めることができると思ったのだ。平成10年、生活空間である江戸や明治の町屋の内部が村上の財産だと確信し、生活空間である町屋の公開を22軒で始めた。話題を呼び、それまでゼロだった旅人が町に訪れ変化が起こる。更に2年後、タイムスリップしたような町屋の中に人形や屏風を展示して公開する「町屋の人形さま巡り」「町屋の屏風まつり」を企画し、旧町人町の町屋60軒で開催。一年を通し全国から30万人が訪れる町になる。しかしなおも近代化が推進されようとするその中、平成14年、市民自ら村上のあるべき姿を示そうと歴史的景観作りを開始。「黒塚1枚1000円運動」を行い、ブロック塀だった塀を市民の力で黒塚に変える「黒塚プロジェクト」を行う。7年間で360mの黒塚を作った。平成16年、町屋再生プロジェクトを開始、町屋再生のための市民基金をつくり町屋の外観の再生を開始した。市民による全国で初めての取り組みで現在20軒が再生。街は徐々に城下町の風情を取り戻しつつあり、一年を通しての街の活性化につながってきている。</p> <p>一人から始めた取り組みだが、仲間ができて、やがて組織を成し、そして事を起こし、逆境の中にあって、市民の意識を変えながら町を動かす強力な運動体へと発展した。行政に頼らない市民主導のまちづくりとして全国から注目を集めている。</p>



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
木下 斉	きのした ひとし	一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス	<p>地域の中心的なチームを組織して新たな事業を創り、その事業経営を通じて地域の抱える経済的・社会的課題を解決するのが、私のスタンスです。</p> <p>・1998年、早稲田商店会における環境を切り口とした商店街活性化に参画。「エコステーション」の運営を通じて、1999年より全国リサイクル商店街サミットを開催(現在までに全国で13回開催)。さらにネットを活用した情報共有を行い、2000年度新語流行語大賞「IT革命」受賞。</p> <p>・2008年には熊本市内における不動産価値の向上を目指し、熊本城東マネジメント株式会社を設立。不動産・店舗経営にかかる契約を一本化することでコスト削減と業務品質改善、まちづくり基金の創出する、エリア・ファシリティ・マネジメント事業を立ち上げる。現在、北海道から九州まで全国各地で同様の事業を立ち上げている。</p> <p>・2009年には全国各地の事業型まち会社とそれを共同で推進する民間企業や専門家によるアライアンス団体、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンスを設立。現在11都市のまち会社が加盟し、共同で事業開発を推進している。</p> <p>・2011年からは、エリア・イノベーション・アライアンスにおいて、新たな事業開発プログラムである「エリア・イノベーションズ・ブートキャンプ」を定期開催。全国から参加者が集まり、事業開発に取り組み、成果を挙げている。さらに、インターネットを活用した事業プログラム販売などのプラットフォーム開発にも着手、まち会社が物理的な制約を越えられるよう、オンラインでの事業開発・経営推進を図っている。・2013年には公民連携事業を推進した実績から、地域活性化伝道師を務めるアワード・アワード・アワードの清水氏、CRA合同会社の岡崎氏と共に一般社団法人公民連携事業機構を設立し理事を務める。同社では2015年より東北芸工大と提携し、公民連携プロフェッショナルスクールを開校し、自治体、民間横断での全国的な公民連携事業家の育成に当たる。</p> <p>・2014年からはeラーニングを活用したノウハウ提供などについても積極的に進めており、ITを活用した現場から現場への情報移転のプラットフォーム整備を自ら開発運営している。</p>
栗原 秀人	くりはら ひでと	下水道広報プラットフォーム	<p>「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、渇水、水質汚濁等々の水の脅威も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『「水の脅威」と「水の恵み」の再確認』②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)』④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)』等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめていると思っています。</p>
小出 宗昭	こいで むねあき	富士市産業支援センターf-Biz(エフビズ)	<p>公的産業支援施設で地域の中小企業・商店経営者、起業家などがビジネス上の課題を解決していく支援を提供することで、地域経済の活性化を目指しています。</p> <p>私の仕事は基本的にいわゆる「ビジネスコンサルティング」ですが、相談者と一緒の目線に立って考え、事業の成功を目指して戦略と戦術を共に練り、結果が出るまでチャレンジすることをモットーとしています。製造、小売、サービス、農水産業など、相談者の業種は問いません。</p> <p>前向きに取り組む事業者を地域から一人でも多く輩出することによって、まちに仕事が集まる仕組みをつくり、地域経済全体の活性化実現につなげたいと考えています。</p>
五井 利明	ごいぶち としあき	NPO法人CRファクトリー	<p>様々な側面から地域と人を活性化させるつながりづくり・きっかけづくりに取り組んでいる。</p> <p>◆「Non-Purpose～首都圏のWA」の幹事として、参加者のソーシャルアクションのきっかけの場となるよう、月に1度のペースで様々な企画を開催している。</p> <p>◆全国各地の地域づくり団体によるプレゼンテーション&amp;ワークショップ企画「風のたより」実行委員会副代表として、各地の地域づくりを全国に発信することに取り組んでいる。</p> <p>◆NPO法人「CRファクトリー」のコンサルタントとして、コミュニティ支援事業を通して、世の中にあたたかく良質なコミュニティを創出・支援することに取り組んでいる。</p> <p>◆岐阜県恵那市の「心の合併」を生んだ映画「ふるさとがえり」を上映会形式によって各地に展開し、全国で人と地域の絆を見直し語り合う場を創出している。</p>
小島 光治	こじま みつはる	ユーエンタープライズ株式会社	<p>・20年以上、雑誌社の発行人として従事したため、広島都市部のまちづくりを提案し、官民一体のムーブメントを組織し、そのいくつかを実現。－ライトアップキャンペーン、水上バス運行推進、地元商店街振興－</p> <p>・中国地方整備局、中経連が推進する「夢街道ルネサンス」の推進会議の委員として認定箇所(現在42箇所)の「地域活性化まちづくり」を指導。</p> <p>・国土交通省道路局の「社会実験推進に関する懇談会」委員として全国各地の採択箇所を視察、指導。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
後藤 健市	ごとう けんいち	合同会社 場所文化機構	「場所文化」をキーワードに具体的な場の設定に関わり、地元の十勝・帯広では、北の屋台(2001)、スノーフィールドカフェ(2002)、東京では、場所文化フォーラム(2002)、とかちの…(2007)、にっぽんの…(2010)の立ち上げと運営に携わってきた。さらに、まちづくりのさまざまなアイデア実現のために会社・団体を複数設立し、場所の価値を生かした実践活動を行っている。2008年には場所文化機構(LLP)を立ち上げ、全国各地での講演や、地域の元気人材を巻き込んだ活性化事業に携わりながら、コミュニティビジネスやソーシャルビジネス創出の強化に取り組んでいる。また、2010年からアジア連携を視野に入れた事業に取り組んでいる。地域活性化事業以外として、障害理解とコンプレックスの自覚のための「アイマスクプログラム」を教育現場で行っており、また、ポケットサイズのカラー点字器を開発し、「名刺に点字を入れる」ボランティア運動も展開している。(カラー点字プレートは98年度のグッドデザイン賞中小企業庁長官特別賞を受賞。)
小林 英嗣	こばやし ひでつぐ	一般社団法人 都市・地域共創研究所／北海道大学	①地域の主体(行政・NPO・住民・企業・大学など)との連携を構築しつつ、都市や地域の創造的再生を臨床学的かつ協働的に支援。 ②全国の地方都市と地方大学の共創的なキャンパスマスタープランの立案と地域再生と結びつく実現戦略を支援。 ③地方都市において、「シティ・ブランディングとなる大学と地域社会との連携と共生による創造的再生」の戦略と戦術、加えてマネジメントプログラムを、まちづくりとキャンパスづくりの両側面から支援。 ④全国まちづくり活動をNPO日本都市計画家協会・会長として発掘・支援し、全国まちづくり大会を開催。
西郷 真理子	さいごう まりこ	一般社団法人チームまちづくり／株式会社まちづくりカンパニー・シーネットワーク	■都市計画家、建築家という専門家の職能をまちづくりのなかで総合的にとらえ住民とのパートナーシップでプロジェクトを遂行している。特にコミュニティをテーマにしたまちづくり「既成市街地の再生」に関して研究活動、実践活動を行っている。 ■高松丸亀町商店街再開発事業:A街区第一種市街地再開発事業及びB/C街区小規模連鎖型再開発事業に係わる総合コンサルタント、権利変換、建築設計・監理業務、国土交通省委託高松丸亀町商店街タウンマネジメントプログラム構築事業、高松まちづくり会社設立のサポート。 ■中心市街地活性化計画として長浜市、山口市、沼津市、板橋区等の商店街活性化戦略プログラム構築事業、震災復興計画として石巻市等他各地のまちづくりを支援。 ■歴史的な町並み保存と地場産業活性化:川越蔵づくりの町並み保存、長浜の商店街活性化、漆の産地活性化のための「木曾くらしの工芸館」の計画立案と建築設計。
齋藤 一成	さいとう かずなり	特定非営利活動法人アンプ／新庄市役所	「商店街活性化三種の神器」の一つ、「100円商店街」を考案。これまでに、全国の124自治体約330商店街に対しそのノウハウを技術供与。最少で人口5千人未満の町や、商店街の店舗数10店舗未満の地域、東日本大震災の被災地等でも起動できる汎用性の高さも最大の特徴。 また、必要経費は単色のチラシ代のみというコストパフォーマンスの高さも特徴の一つ。 「商店街の活性化とは、そこにある個店の収益の増加」との見地から、高い収益性や爆発的な集客力を誇る事業へと進化させ続けている。 全国平均、1開催地当りの平均集客数は1万人、来街者の平均購買金額は1人@2千円であり、開催地には即日2千万の経済効果を生むことが可能。 現在でも、100円商店街の導入を希望する地域が後を絶たない。 また、100円商店街事業のみならず新たな商店街活性化事業の研究開発も行っている。
酒井 信一郎	さかい しんいちろう	城下町再生志士隊	地域の歴史的建造物の修景計画 ブロック塀を木材を使ったデザイン的美装化の現場作業 歴史的建造物を調査して、一般市民に解りやすいよう価値体系づけを行う。
崎田 裕子	さきた ゆうこ	ジャーナリスト・環境カウンセラー	くらし・地域など足元から持続可能な社会の実現を目指して、NPO活動、個人での活動、行政委員として生活者視点での実践及び政策提言活動を実施。 ■「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長として、 1)「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰で全国の個性ある地域環境活動を応援。 2)全国の地域環境活動キーマンを集め「環境まちづくり体験エコツアー」を実施。2011年は、前年入賞地・熊本県八代市で、市民相互交流(環境まちづくり・学び合い)を実施した。 3)資源エネルギー庁主催の高レベル放射性廃棄物に関する地域ワークショップ「共に語ろう 電気のごみ」を、全国で実施。 ■「NPO法人新宿環境活動ネット」代表理事として、 1)地域と学校の連携による「新宿の環境学習応援団・まちの先生見本市」開催。 2)「新宿区立環境学習情報センター(エコギャラリー新宿)」の指定管理。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
佐々倉 玲於	ささくら れお	一般社団法人いなかパイプ	高知県・四万十川流域に暮らしながら、「いなか」と「とかい」をつなげる事業開発&人材育成に取り組んでいます。海・山・川の一次産業の再生に向けて、農家さんや漁師さんたちとインターンシップ事業や起業家育成の事業に取り組んだり、商品開発や観光開発に関わるワークショップの企画運営を行っています。
笹原 司朗	ささはら もりあき	琵琶倉庫株式会社	明治33年、滋賀県長浜市の中心市街地に第三百十銀行国立長浜支店が建てられ、黒漆喰の外観から「黒壁銀行」という愛称で親しまれた。昭和40年代頃まで活況であったが、モータリゼーションの発達や郊外型大型店の進出により中心市街地は急速に衰退していった。昭和27年から黒壁銀行はカトリック教会として使用されていたが、商店街の衰退とともに郊外への移転を余儀なくされ建物を売却した。建物が売却されたことで長浜市より要請を受け、昭和63年4月、長浜市(出資4,000万円)と地元企業8社(合計出資9,000万円)による第3セクター「株式会社黒壁」を設立。建物の保存と活用を目的とし事業を模索する中、「ヨーロッパでガラスを制作している所には人が集まる」という役員の一言でガラス事業の研究を提案。国内のガラス観光地を視察するが、土産物ばかりのガラス製品に不信感を抱き、土産物ではないガラス工芸品を取り扱う事業を目指す。国内を抜け出し役員らが自費でヨーロッパのガラスを視察。ガラスの歴史・文化性を目の当たりにしたことで、【ガラス文化の事業化】という方向性を見出す。建物を含む「歴史性」、祭りを含めた「文化芸術性」、「国際性」豊かなものを内在するガラス文化事業の推進を図る。平成元年7月1日、黒壁銀行を「黒壁ガラス館」としてガラス工房、レストランと共にオープン。来街者数の増加に伴い施設の拡張が必要となった折、長浜市の調査で黒壁ガラス館の横に通る北国街道沿いには江戸から明治時代にかけての商家や町屋が多く残っていることがわかり、これらを活用した事業展開を行う。平成2年より第2期事業として、地元物産館やガラスギャラリー、郷土料理店などをオープン。平成4年に増資を行い、ガラスの美術館である「黒壁ガラス鑑賞館(現:黒壁美術館)」をオープン。現在、黒壁スクエアは約30店舗となり、年間約200万人の来街者で賑わう。
定藤 繁樹	さだとう しげき	関西学院大学	2003年度 都市再生モデル調査を実施。2004年度 宝塚市と大学によるまちづくり包括協定締結、文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(「現代GP」)に採択。2005年度 地域フィールドワークとしての取組、各種の社会実験(オープンカフェ、フリーマーケット、光の散歩など)を実施。2006年度 地元大学との学学連携による各種取組。2007年度 地域フィールドワークとして商業イノベーション、映像プロジェクト、コミュニティ醸成などの取組。2008年度 逆瀬川地区の商店街活性化、巡回バス運行によるイベント活性化、フェアトレードなどの取組、「社会人基礎力グランプリ」準大賞を受賞。
佐藤 皓詞	さとう ひろし	有限会社日智(ニッチ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域環境と住まい手ニーズをしっかりと検証したまちづくり計画の推進支援</li> <li>・地域ポテンシャル分析とともに、「住まい手ニーズ」と「主体者シーズ」の掘り起こし</li> <li>・地域資源(人、もの、歴史、観光、文化、環境など)の開拓</li> <li>・まち機能(医療福祉、教育、環境整備、生活利便施設など)の配置とゾーニング計画</li> <li>・まちづくりの担い手人材育成・継続できるまちづくりの仕組みづくり指導</li> <li>・地域コミュニティ創出に向けたサービスや収益事業、施設計画事業などの指導</li> <li>・中心市街地活性化基本計画の推進におけるプロセスマネジメントの指導</li> </ul>
猿舘 祐子	さるだて ゆうこ	株式会社土澤まちづくり会社	中心市街地活性化を目的とする住民参加協働型第3セクター株式会社土澤まちづくり会社設立当初より、事業の立案企画を担当。中小企業庁新・がんばる商店街77選に選ばれた土沢商店街を中心とする土沢地区での「街かど美術館 アート@つちざわ〈土澤〉」、周辺農村地区で商店街を開催する「押しかけ商店街」などを実施している。また、商店街の活性化には、土沢地区の地域再生は不可欠と、(株)土澤まちづくり会社役員を中心に合同会社土澤長屋暮らしを立ち上げ、街なか居住と商店街の活性化を目的とした共同建替え事業店舗付き共同住宅「こっぼら土澤」を10年越しに住民主体で完成させた。現在は、商店街(商店)と周辺農村(農家)の連携を図り、イベントによる地域発信、地域ブランドの開発を進めている。
志賀 秀一	しが しゅういち	(株)東北地域環境研究室	観光を基軸としたまちづくり、計画づくり、観光マーケティングなど。観光施設などの整備に関する調査など。
篠原 靖	しのはら やすし	跡見学園女子大学	小職は約30年間に渡り、大手旅行会社で商品開発やマーケティング業務を行う一方、地域素材を活かした数々の着地型旅行商品をヒットさせて来ました。現在は大学で「観光地域活性化」に関する教鞭をとる一方、その土地にしか無い観光資源の発掘とリメイクを行いながら新たな観光誘客に必要な受け入れ態勢の整備(日本版DMOの構築)のお手伝いをしております。地方創生戦略で新たに注目を集めているのは交流人口を拡大し地域の小さな経済を回す新しい概念の観光による地域活性化の手法です。観光は今や農業、漁業や商業、工業など地域力を総結集して地域の魅力を120%創出する事が求められています。一方インバウンド観光客は2000万時代を迎え訪日外国人旅行者の消費額は3兆円を突破しました。しかし課題は外国人観光客の地方分散です。こうした新たな流れの中で全国の市町村においても出来る対策を今から準備する必要に迫られています。しかし多くの地域は一生懸命に取り組んではいないもの、残念な事に空回りしている地域が大変多いのが現状です。全国各地で実践してきた現場の成功事例、失敗事例をベースしながら、『自分の地域を本当に何とかしたい!』という熱い皆さんの地域を応援していきます。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
柴田 いづみ	しばた いづみ	結まちづくり研究所・柴田いづみ まちなか研究室／SKM設計計 画事務所	<p>主な取組</p> <p>1 環境 →内湖再生の基礎調査 琵琶湖の内湖再生の為の活動。</p> <p>2 中心市街地活性化 → 学生サークルACT(Action Connect with Town)との空きビルを使った中心市街地拠点活動。</p> <p>3 まちづくり → NPO彦根景観フォーラム副理事長として、又、LLPひこね街の駅等での活動。歴史・景観・まちづくりフォーラム実行委員長。大学より拠点をなちなかに移し、地域に密着したまちづくりに取り組む予定。目白まちづくり倶楽部で各種活動。</p> <p>4 耐震・防災 →NPO東京いのちのポータルサイト理事として、各方面に提言。防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長、木造伝統構法の耐震事例づくり。</p>
島谷 留美子	しまたに るみこ	(株)東北地域環境研究室	各地の観光調査、道の駅など地域の交流拠点施設等の企画、計画づくりに係り、これまで岩手県平泉町の世界遺産登録に向けた観光まちづくり調査、宮城県大崎市、石巻市、秋田県横手市の道の駅建設事業、青森県東通村などの観光調査、農水産物直売所等建設計画等に係る。平成23年度には、東北7県(新潟県を含む)の農山村の女性起業家の動向を調査し、起業をめざしたきっかけ、困難にぶつかったときにどう乗り越えたのか、事業を継続する上でのポイント、これからの目標等についてインタビューを行ってまとめた。
清水 義次	しみず よしつぐ	株式会社アフタヌーンソサエティ	まちの土台は人と不動産にあります。まちづくりを、従来の商業者主体のまちづくりから、エリア内の不動産オーナーと家守(やもり)が連携した、市民主知の活動と捉えてみてはどうでしょうか。しっかりした不動産オーナーの方々が連携すると継続するまちづくり活動が出来て、まちの価値が上昇します。この当たり前のことが極めて重要です。現代版家守の活動は、2003年に千代田区の神田から始まりました。衰退エリアの不動産を活用し新しい動きを創り出すプロデューサー役として、家守はまちづくりとFMの接点領域の活動を日本全国で展開中です。まちに住む人たち、行政マン、大学の方々みんなが力を合わせて楽しく元気に家守事業を興して、次の時代に繋がる“生きたまち”にしていきたいと思います。
下田 祥裕	しもだ よしひろ	真砂不動産株式会社／[元 NP O法人KAO(カオ)の会]	<p>NPO法人KAOの会では、以下のエリアマネジメント活動を行っていました。</p> <p>※()内は活動の概要、【】内は仕組みを表しています。</p> <p>1.公共空間の維持管理(駅前広場管理業務)【市委託＋地域住民直接負担】</p> <p>2.賑わい創出(イルミネーションイベント、夏祭り、コンサート、寄席)【公民連携、私企業協賛】</p> <p>3.デザインコントロール(ビル外観や道並み景観の同調)【地権者間調整】</p> <p>4.テナントミックス(リーシング、営業内容調整)【新規開発ビル商業床の一括借上げ】</p> <p>このほか、各種講演活動や視察ヒアリングの受入れも実施してきました。</p> <p>いわき駅前復興まちづくりに於いては、今までの経験を生かしつつ、白紙のキャンパスに描くべく、「地域を元気に」、「未来に夢を」を基本理念として、「30年先を考えたまちづくり」を目標として、今出来ることを一歩一歩進めるべく助言し、実行可能な企画立案を行い、行動することを目指します。</p>
白枝 淳一	しろえだ じゅんいち	特定非営利活動法人 出雲ス ポーツ振興21	<p>地域はもとより全国の個人・団体・企業と繋がり、NPOとして以下のような考えに基づき具体的な事業を展開している。</p> <p>○理念:「スポーツ振興による地域づくり」</p> <p>スポーツの日常化により元気な市民(心身ともに健康で活力ある市民)を創出、市民と共に地域活動活性化を推進し、元気な地域(市民が暮らすことに幸福を感じ、愛着と誇りを持つ地域)づくりに貢献する。</p> <p>○ミッション:「スポーツライフの確立と進展」</p> <p>①市民が健康で豊かな人生を送れるよう、誕生から天寿を全うするまで、各世代における市民とスポーツの係わりを創出・支援する。</p> <p>②スポーツの間口の広さを活かし、教育・福祉・経済・観光・文化など多様な分野との連携を深め、スポーツの横軸で結ぶ事業展開を図る。</p> <p>具体例としては、公共施設の管理運営と有効活用・体協等スポーツ団体やイベント実行委員会の事務局・スポーツクラブの運営・高齢者の介護予防・子供の体力向上・スポーツツーリズム・校庭の芝生化・障がい者福祉・国際交流などの事業を行っている。</p>
新海 洋子	しんかい ようこ	特定非営利活動法人 ボランタ リーネイバース	中部7県で、持続可能な地域づくり、社会形成のための、行政、事業者、NPO/NGO、学識者等多様な主体の協働による「環境」「まちづくり」「サステナビリティ」「教育」を主なテーマとしたコンサルティング、マッチング等協働事業支援を行っています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
杉本 匡規	すぎもと まさのり	みなとオアシス網走運営協議会	生まれ育ったまちに誇りと感謝の念を抱き、自分の子供のみならず、全ての市民にまちに対してまちへの思いによる行動を生み出すべく活動させて頂いております。青年会議所をとおして提出したスポーツによるまちづくりに関する政策提言をはじめ、若手有志によるまちのPR活動等、行ってきました。現在はまちの中心を流れる網走川筋から市民の憩いと賑わいを創出するべく、まちに対する誇りという精神的自立と環境整備による物質的自立から真に自立した地域へ向けた活動をしております。また、まちの将来を思う時、この国を思います。そこには、親も含め国家観を養う教育が必要であり、まちづくりにおいても、国家観の涵養あってこそ地域発展が成し得ると信じ活動しております。
鈴木 進悟	すずき しんご	特定非営利活動法人神岡町づくりネットワーク	廃線当時、旧神岡鉄道の廃線後に残された鉄道資産は、「町のシンボル・地元民のルーツ」であると地元の有志(当時の神岡鉄道協力会)らが、それぞれの持つアイデアを集結しました。自分たちの手で作った「乗って楽しい」乗り物を走らせることで鉄道資産を「そのままの形」で保存し活用したい、そして残された鉄道資産を取り巻く「町並み」を子供たちの世代に語り継いでいきたい…そんな彼らの想いに、鉱山の町ならではの「モノづくりの精神」に溢れた鉄工所が設計図を引き、試行錯誤の末に完成したのがレールマウンテンバイク。地元住民の想いと技術が一体となって取り組んだこの「廃線エコプロジェクト」は、たくさんの皆様のお力添えを頂きながら、たくさんのお客様の笑顔をお迎えすることができるようになりました。
鈴木 泰弘	すずき やすひろ	小名浜まちづくり市民会議	・小名浜まちづくり市民会議は、地域の各種団体30、企業、市民参加200名により、地域のタウンマネジメントを行っている。小名浜港アクアマリンパークの賑わいづくりでは港湾管理者との運営協定を締結し、年間250万人の交流空間として港を再生。中心市街地のまちづくりでは、商業の文化や地域の歴史を取り入れた活動を展開している。またいわき市のパートナーシップ協定により、行政と共同での地域計画作り、その進捗など官民が連携してのまちづくりを実施している。 ・小名浜美食ホテルは、港湾再開発事業としてスタートし公設民営の新しいモデルとして平成20年にスタート。食をテーマとした商業施設を開設させ、港のにぎわいづくりに大きく貢献している。津波と原発の風評にも負けず、平成23年12月にはたくましく再開を果たす。 更に24年10月には、第2回SEA級グルメ全国大会を小名浜港に誘致しその開催に当たり、地域の元気を発信し続けている。
関 幸子	せき さちこ	株式会社ローカルファースト研究所	1997年よりSOHO CITY みたか構想、中心市街地活性化事業に取り組み、株式会社まちづくり三鷹を設立、三鷹産業プラザの建設、三鷹電子商店街、三鷹子育てねっと、三鷹ワークスなどのプロジェクト、2002年～2005年 経済産業省の地域新生コンソーシアム事業にて高解像度医療用顕微鏡開発事業 2007年12月秋葉原タウンマネージメント株式会社設立：広告事業などエリアマネジメント事業、2009年4月 財団法人まちみらい千代田 専門調査員就任：「市町村サテライトオフィス東京」 2010年10月株式会社ローカルファースト研究所設立。全国の人口減少し過疎化する地域の活性化と地域産業の振興に取り組む 2011年9月 震災復興ワークス設立 東日本大震災で大きな被害を受けた自治体支援 2014年より、地域活性化に関する関係関係会合 地域プラットフォームワーキングチームメンバー就任し、地域再生計画モデル地区の評価を実施 2015年3月より東洋大学にて地方創生推進に向けた人材育成塾を開催
善養寺 幸子	ぜんようじ さちこ	株式会社 日本農水産食品輸出貿易センター	《環境教育》 環境省「学校エコ改修と環境教育事業」のサポート本部。全国のモデル校を支援 《環境都市デザイン》 新潟県新潟市「西野・中野山サステナブルエコタウン構想(区画整理事業)」企画構想策定 《環境政策コンサルティング》 ・「クールシティ・エコシティ普及促進勉強会」、「ローカーボン地域づくり・まちづくり研究会」等、産官学連携勉強会企画 ・「内閣府社会起業家インキュベーション事業」運営、アドバイス支援 ・産官民協働事業「エコビジネスの芽を見つけ、育てるコンテスト「eco japan cup」」企画・統括プロデューサー 《復興支援》 ・福島県双葉町平成24年度復興まちづくり計画策定に向けた「町民参加の7000人の復興会議」企画提案・実施 ・復興庁「復興ビジネスコンテスト「REVIVE JAPAN CUP2013」企画運営
高津 定弘	たかつ さだひろ	高千穂大学	国土計画、経済計画、地域開発、地域政策、経済政策など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
高橋 修一	たかはし しゅういち	特定非営利活動法人 あぐり ねっと21	<p>○国の各種補助事業を通して多くの地域活性化の実態を把握し、事業後も独自でモニタリングなどにより、地域作りの調査研究を行っています。</p> <p>○東日本大震災で被災した地域の復興のため、土地利用再編、新しいまちづくりの指導助言を行い、円滑な復興事業実施に向けた支援を行っています。</p> <p>○被災した自治会・町内会のコミュニティ再生のため、地域住民と一体となった地域活性化活動をしています。</p> <p>○農村地域の多面的機能保全のため、地域住民と共同の活動をしています。</p> <p>○グリーン・ツーリズムの推進活動をしています。</p>
高橋 幸照	たかはし ゆきてる	水土里ネット立梅用水	<p>・1993年 農村景観向上のため、住民ボランティアによる「あじさいいっぱい運動」を20年余継続し、勢和地域をあじさいの里として有名にしました。</p> <p>・1995年 農村環境保護のため、「ほてい倶楽部」というボランティア団体を組織し、荒廃田を利用したピオトープを整備し、水生生物の保護とイベントの開催を行い、都市と農村の交流を促進しています。</p> <p>・1996年 地元住民による手づくり演劇「ほてい葵」に参加し、郷土の偉人、歴史をテーマに講演を行っています。</p> <p>・1996年 「ふるさとの水と土に感謝して」をテーマに各種ボランティアの協働により、あじさいまつりを毎年開催し、都市と農村の交流を図っています。</p> <p>・2000年 学校教育と連携し、地域住民主導による食農体験を通じたコミュニティスクールを開催。</p> <p>・2005年 農村文化の保護と地産地消の拡大を目指し、農業法人「まめや」の設立に参加しました。</p> <p>・2007年 自治会、教育機関、図書館、老人会、ボランティア組織、コミュニティビジネス組織、営農組織、水土里ネット等多様な主体(20団体4支援組織)の連携による協議会(多気町勢和地域資源保全・活用協議会)を立ち上げ、地域資源の保全と有効活用(多面的機能支払制度)に努めています。</p> <p>・2011年 農業の高齢化と後継者不足解消のため、農事組合法人「元丈の里営農組合」を設立し、旧保育所を活用した農産加工所(6次産業施設「ゆめ工房」)を立ち上げました。</p> <p>・2012年 産官学民連携による立梅用水を活用した地産地消型小水力発電「彦電」の開発を推進しています。</p> <p>・2016年 農村の福祉を目的に一般社団法人「ふるさと屋」を設立し、その活動源に再生可能エネルギー「小水力+太陽光」を活用し町づくりを進めています。</p>
高村 義晴	たかむら よしはる	日本大学理工学部まちづくり工 学科	<p>①大都市等の企業・社員と地域のプロジェクトをマッチングさせる「二地域就労」による、新たな地方再生の仕組みづくりの取組み(二地域就労プロジェクトの提唱)</p> <p>②「地域の起業」興しによる地域主体の復興の推進(起業復興の提唱)</p> <p>③「人口減少社会における持続可能な都市・地域づくり」の新たな方法論として、その土地々々の美意識や作法、技、資源を生かした暮らしのスタイル(ライフスタイル)を築き、そのブランド化をとおし、手仕事・生業、信頼と絆、誇りを生み出す都市・地域づくりを展開。</p> <p>④疲弊の進む郊外型住宅団地の再生法について、「住民の住民による街づくり会社方式」の提唱、土地の利用と所有の分離、また手仕事や楽しみ、暮らしの創造などを提唱。</p> <p>⑤その土地々々の多彩な暮らしのスタイル、暮らしの楽しみ方を築き、それに彩られる地域の営みや手工芸品を語る生活文化創造産業の普及運動(クールジャパン)と展開(経産省)</p>
高本 泰輔	たかもと たいすけ	㈱金沢商業活性化センター	<p>◆商業施設「プレーゴ」の運営 遊休地を活用した商業施設「プレーゴ」の開発からテナントの管理・運営</p> <p>◆金沢まちなかパーキングネットの運営 商業集積地2地区が一体となった駐車料金サービスシステムの立ち上げから管理・運営</p> <p>◆金沢ショッピングライナー「まちバス」の運行 金沢駅～武蔵地区～香林坊地区～金沢21世紀美術館を結ぶワンコインバスの運営</p> <p>◆まちなか情報の発信 ・北陸三県のFMラジオを通じて、毎週末にショッピング情報等を放送 ・まちなか全体のショッピングマップ(1,100店舗掲載)の制作と同マップサイトの運営</p> <p>◆商店街や大型店の組織づくり 事業構想、事業計画等の立案～事業実施</p> <p>◆その他(イベント、各種調査・研究事業等)</p>
滝澤 恵一	たきざわ けいいち	中小企業診断士滝澤恵一事務所／(一社)長野県中小企業診断協会／NPO法人地域づくりクラブ	<p>「自分を生きる、ともに生きる」をメインテーマに、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、農工商連携、商店街や観光業者と農林漁業者の連携の支援。「暮らす、働く、生きる」「ゆらぎをつくる」「地域コミュニティ、ライフスタイルコミュニティ、ビジネススタイルコミュニティによりコミュニティを創る」「コミュニティとはともに生きていると実感できる場であり、場とは時間と空間である」「地域の絶対的個性は歴史と文化であり、これを見つけ、活かし、育てつなげるのは人であり、人的文化である」などの視点から、現場でワークをし、「感じ、考え、動くこと」を伝えている。また、「地域づくりは経営である」「経営とは、心と頭脳、身体を持った人の行為である」という視点で支援を続けている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
竹本 慶三	たけもと けいぞう	させぼ四ヶ町商店街協同組合	郊外大型商業施設店舗に対抗すべく、アーケードでつながる百貨店と二つの商店街を「さるくシティ403」と名づけ一体的に活動するなど、商店街の組織化に尽力。まちを「出逢いと交流の場」にするため、大規模な市民参加型イベントを主催している。特に百万個の電球でライトアップする「きらきらフェスティバル」や27万人を集客する「Yosakoiさせぼ祭り」は全国的なイベントに成長した。その甲斐もあり佐世保の中心商店街は20万都市では「日本一元気な商店街」と言われるまでになっている。「まちを元気にする」講演・まちづくり指導に全国を飛び回っている。
太齋 彰浩	ださい あきひろ	南三陸町	民間の研究所で、海洋生物・生態学の研究者として藻場造成等の研究に従事。地域密着型の教育活動を志し、志津川町(現・南三陸町)へ移住。使われなくなった箱もの施設を再生し、住民も気付かない地域資源の掘り起こしと、体験学習プログラム開発により、学びをキーワードにした交流人口の増大に貢献。慶応義塾志木高等学校の研修プログラムやJSTの高校生サイエンスキャンプ受け入れなどで、年間2,500名ほどの教育利用を創出。地域の人材育成にも力を入れ、地元小中学校でのプログラム実施やエコツアーガイド等の養成を行う。 東日本大震災で町が壊滅的な被害を受けた後は、水産業の復興に取り組むとともに、持続可能な地域社会の姿を模索し、未利用資源を無駄なく使う「地域循環の仕組み」づくりに注力。
田城 孝雄	たしろ たかお	放送大学	平成9年に国立大学医学部付属病院として初めての総合医療連携部門(医療社会福祉部)を立ち上げました。さらに地域包括ケアの先進モデルである広島県尾道市の取組みの解析を行い、多くの知見を得ました。東京都保健医療計画策新協議会改定部会委員や、世田谷区地域保健福祉審議会での議論を通じ、地域における保健・医療・福祉計画の立案に関与しました。また、板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会委員、足立区糖尿病対策協議会アドバイザー、横須賀市医師会医療連携協議会アドバイザー、さらに豊島区在宅医療推進協議会会長、文京区在宅医療推進協議会部会長など、行政と三師会などとの協議会の運営に関わり、いろいろな立場の方々の意見を尊重しながら、地域の保健・医療・介護・福祉のネットワーク作りに取り組んでいます。また、全国で招請され講演を行っております。 内閣官房地域活性化統合本部 地域再生推進委員会 委員長として、地域再生を推進する方策の検討に取り組んでいます。
谷川 良一	たにかわ りょういち	特定非営利活動法人グラウンドワーク西神楽	・人口高齢化に伴う諸課題や、農村に滞りながら農作業を体験し安全な食を確保したいなど都市住民の意向に対応すべく、都市と農村の連携を見据えた冬季集住や夏季滞在のための実態調査、地域住民の意向調査、新たな居住形態を踏まえた農村整備の在り方、農村住民の冬季集住と都市住民の二地域居住を組み合わせた「新たな地域共同体」のあり方を提案する ・シーニックバイウエイ北海道は「みち」をきっかけとして、地域の方々が主役となって、行政や企業などと連携しながら、広域的に美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりに取り組んで、愛着と誇りの持てる地域を実現する取り組みである。北海道の12ルートの中の大雪・富良野ルートにて活動を始め11年目を迎える。 ・地域の課題を地域自らが向き合い、「宝」に変える！！地域の活動の自立的な発展とそれによる地域活性化を実現するために、地域にある様々な資源の「新しい公共」の考え方に基づくコミュニティ活動への参加を促進するコミュニティ活動支援ファンドの試行。
谷本 訓男	たにもと のりお	八幡浜港みなとまちづくり協議会	八幡浜港みなとまちづくりの会長として、市民フォーラムの開催、みなとまちづくりプランの策定、みなとまちづくりコンペの実施、市長へのみなとまちづくり提言書の提出など、産・民・官・学の連携による地域のみなとまちづくりを先導的に推進しています。平成18年より地元高校生生徒に授業として「まちづくりとものづくり」の講演行っております。 平成25年4月より非営利活動法人港まちづくり八幡浜でみなと交流館の指定管理業務。 平成19年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。 平成24年 社団法人日本港湾協会 企画賞受賞。 平成25年 公益社団法人日本港湾協会港湾功労賞受賞 平成25年 ポート オブ ザ イヤー 受賞

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田淵 正人	たぶち まさと	滋賀県愛荘町	<ul style="list-style-type: none"> <li>■観光振興・地域振興等に対する支援や指導、アドバイス <ul style="list-style-type: none"> <li>○観光地域づくり</li> <li>○ニューツリズム・着地型観光・体験交流型観光</li> <li>○観光振興計画・観光ビジョン等の策定</li> <li>○観光振興・地域振興・人材育成等の講演会や研修会、セミナー等の講師</li> <li>○プラットフォームや広域連携等の仕組み作り、強化等</li> <li>○人材育成(担い手・コーディネーター)や農家民宿開発等</li> <li>○着地型旅行商品や体験交流プログラム等の商品造成</li> <li>○第6次産業化、農商工連携</li> </ul> </li> <li>■まちづくり・地域活性化・地域再生 <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域活性化支援アドバイザー</li> <li>○地域資源活用アドバイザー</li> </ul> </li> </ul>
田村 文男	たむら ふみお	NPO法人 密集住宅地区整備促進協議会	<p>木造住宅密集地域の地権者、関係権利者に対して、阪神・淡路大震災の教訓を生かして、木造住宅密集地域における改善・防災・環境の向上・過密した市街地の有効活用や建物の共同化及び整備に関する研究を行い、安全で快適なまちづくりに寄与するとともに、高齢者・障害者介護及び医療施設の基盤整備を促進する事業を行い、要介護高齢者・障害者福祉及び医療の増進に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人仁医会 介護老人保健施設コンサル</li> <li>・社会福祉法人善光会福祉複合施設コンサル(工業専用地域に建設)</li> <li>・耐震偽装マンション グランドステージ池上 建替えコンサル(マンション建替え円滑化法)</li> <li>・密集住宅地区整備共同化 アイリス壱番館(80戸)ル・サンクアイリスタワー(208戸)外10棟</li> <li>・ものづくり工場アパート建設コンサル(民設民営工場アパート、延床2400坪)</li> <li>・京急蒲田西口再開発(2.5ha)</li> </ul> <p>神社、お寺を含むまちの再生「あすと・ふるさとの森創造プロジェクト」推進</p>
近兼 孝休	ちかかね たかやす	株式会社琴平グランドホテル	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、春の歌舞伎公演を30回実現</li> <li>○国の重要文化財指定「旧金毘羅大芝居(金丸座)」で、秋の歌舞伎公演を2回実現</li> <li>○自社掘削の温泉を地元旅館に供給して「こんびら温泉郷」をつくる</li> <li>○「こんびら温泉祭り」の開催</li> <li>○「石段マラソン」を実行委員長として開催</li> </ul>
寺井 良夫	てらい よしお	一般社団法人SAVE IWATE	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくりのコンサルタント 株式会社邑計画事務所では、主に岩手県内のまちづくりに関するコンサルタントを行っています。一方、仕事外でもまちづくりに関わるさまざまな実践活動に取り組んでいます。</li> <li>●被災地支援活動 東日本大震災を機に市民のボランティア団体「一般社団法人SAVE IWATE」を立ち上げ、理事長として物資支援、生活相談、心のケア、仕事づくり、学習支援、チャリティ活動など、幅広い支援活動に取り組んでいます。そのなかで、地域の埋もれた資源であるクルミを活用しての特産づくりが動き始めています。これからはとくに被災地での仕事づくり、新たなまちづくりに重点をおく考えでいます。</li> <li>●民俗芸能や伝統文化の活用 岩手に伝わる神楽、鹿踊、剣舞などの民俗芸能を地域の活性化に活用するため、「いわて民俗観光プロジェクト」を組織し、代表として民俗芸能のイベント開催や情報発信を行っています。また、北東北茅葺きネットワークを組織して茅葺き民家の保存活用を進めているほか、盛岡芸妓の育成にも取り組んでいます。</li> <li>●川の活用 盛岡の中心部を流れる中津川を活用したまちづくりのため、「NPO法人もりおか中津川の会」を組織し、事務局として川の清掃、川で遊ぶイベント、野の花の植栽、川の講座などを行っています。</li> <li>●交通対策 マイカーに過度に依存した社会からの転換をめざすため、「減クルマでまちづくり実行委員会」を組織し、事務局として各種の社会実験や啓発活動に取り組んでいます。これまでに実施した社会実験は、馬車の運行、パーチクの駐輪場化、自転車レーンの設置、バス路線の変更、モビリティマネジメント、雪かきスコープの設置、啓発資料の作成などです。また、岩手県全域の鉄道とバスの交通案内システムを開発しネット上でサービス提供しています。</li> </ul>
土肥 健夫	どひ たけお	株式会社 事業開発推進機構	<p>一般的な商業集積、観光施設作り等に加えて、事業化・収益化が難しいと考えられている、以下のようなソフト事業の自立的な事業化に取り組んでおります。取り組みの“事業としての仕立て”を最も得手としております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・御当地検定：明石タコ検定(兵庫県明石市)</li> <li>・食によるまちづくり：「鍋焼きラーメン」によるまちづくりと「浪花麺だらけ(大阪市)」、「新横浜ラーメン博物館(横浜市)」への出店支援(高知県須崎市)</li> <li>・観光案内人、各種アクティビティ</li> <li>・インストラクター等のプログラムを絡めた、伝統的建造物群保全地区における漁家民宿整備(京都府伊根町)</li> <li>・地域活性化と運動したスポーツ・マネジメント(石川県金沢市等)</li> </ul>



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
長坂 尚登	ながさか なおと	WE LOVE MIKAWA / だいすき課	愛知県豊橋市の商店街マネージャーとして、まちなか活性化のために奔走。 ■「豊橋まちなかお店マップ」「豊橋まちなか看板娘マップ」の作成 ■空き店舗を改修した交流拠点「花園ベース: HANACOYA」の設置、運営【グッドデザイン賞2014】 ■空き店舗・空き家見学ツアー ■「豊橋に日本一の図書館をつくろうプロジェクト」 などを実施。地元の学生や若手社会人らを、戦力的に活用し、成果を上げている。 <経歴・実績> H21農水省: 農業を通じた日系ブラジル人青少年と地域社会との共生プロジェクト(豊橋市) H20,21内閣府、H22,23総務省: 高齢者対応の長期滞在旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) H19経産省、H20全国商工会連合会: 食物アレルギー対応旅行の立ち上げ(沖縄県久米島町) その他、国内消費財メーカーなどBtoC企業へのマーケティング調査多数。
長坂 泰之	ながさか やすゆき	独立行政法人 中小企業基盤整備機構	商業まちづくりを中心に、地域再生・創生、中心市街地の再生、震災復興支援、まちなか観光、地域資源活用などをプロジェクトチームを組んでご支援させていただいています。また、事業リスク、事業の成立性、投資採算性、コミュニティの創造、エリア価値の創造、そして人づくりの観点から、プロジェクトをチェックし、時代の変化に対応し、かつ身の丈に合った計画づくりを心掛けてご支援をさせていただいています。
中嶋 成夫	なかじま しげお	牧之通り組合(ぼくしどおりくみあい)	この通りでは、雪国の町屋様式で雁木を備えていたが、近年の生活環境の改善による改装等の影響により、その魅力は損なわれ賑わいを失った時期もあった。しかし、「雪国の歴史と文化を活かすまちづくり」をコンセプトとして、官民協働で街路と建物等を一体的に整備することで、旧三国街道塩沢宿を感じさせる雪国特有の街並みとその魅力を復元。また、牧之通り組合では、街路事業と同時に沿道の建築物を2m幅で壁面後退(セットバック)したスペースに、連続する雁木の建築(復元)を行い、街の統一されたまちなみ形成と冬の降雪期に対応した、雪国ならではの特色ある快適な公共・公的空間を創出し、まちづくり活動にも積極的に取り組んでいる。これらの社会資本の整備と協調した「射干の会」主体で始まった地域活性化イベントの成果もあって、現在では最盛期に優るとも劣らない賑わいと交流活動を再生している。
ナカムラ ケンタ	なかむら けんた	株式会社シゴトヒト	□生きるように働く人の求人サイト「日本仕事百貨」 ありのままの仕事を紹介する求人広告サイト。 口コミで広がっており、北海道から沖縄まで毎月100件以上の問い合わせがあり。掲載した3社のうち、2社で採用に至っている。平均応募者数は32名。 アクセス数は月間100万以上。利用者の8割は20代、30代の社会人。 転職を考えていないけれども読み物として楽しんでいる方が多い。 □いろいろな生き方働き方を知る「しごとバー」 いろいろな方を1日バーテンダーとして招き、飲みながら気軽に話をする機会を提供。 起業や採用などの機会を創出している。 □その他 シゴトヒト文庫ディレクター グッドデザイン賞審査員、フォーカス・イシュー・ディレクター リノベーションスクールユニットマスター シンヤ大学しごと課ディレクター 東京の真ん中に小さなまちをつくるプロジェクト「リトルトーキョー」企画・デザイン監修 どこでも気軽に映画を上映できるプロジェクト「Popcorn」
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖縄県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中村 英雄	なかむら ひでお	特定非営利活動法人 新町川を守る会	自分たちの住む街が永久にきれいにならないとの危機感から、「自分たちの汚れた川は自分たちの手で再生しよう」というテーマの元に、市民の手で人々から愛される美しい川の復活を目的に、市民活動団体を設立しました。平成2年に有志10名で「新町川を守る会」を設立し、月2回の船による河川清掃と、田宮川堤防の修景作業から取り掛かりました。その後は河川清掃はもちろんの事、河川環境啓発無料遊覧船の運航や水際ラブリバーイベント活動を通して市民に河川環境に関心を寄せてもらい、人々や魚を少しずつ川に呼び戻し、網状河川に囲まれた水都徳島の再生を目指して、現在も活動をすすめています。今では、毎月2回行っているボートでの川の清掃には、会のメンバーだけでなく、企業や学校、官庁からも参加してもらえるようになりました。徳島市新町川と助任川の他、田宮川・吉野川の清掃、ひょうたん島周遊船の運航、花植え、植樹活動など、年間を通して多彩なイベントを行っています。「河川協力団体」に日本で初めて認定される。
納戸 義彦	のと よしひこ	NPO法人島の風 / 合同会社島の元気研究所	■「古民家をリサイクルし、地域住民が運営するコミュニティ・ツーリズムを推進するプロジェクト」(古民家再生プロジェクト) ■「沖縄古民家再生職人養成カレッジ」 ■「農的暮らしキャンプ」 ■「住民による島の宝再発見事業『しまあかり』」 ■「風の学び地の学び『島塾』」(新規人材育成事業) ■「地産地創」(島の元気研究所)等、それぞれの事業は決して大きくはないが、それらを互いに力強くリンクさせることで「島を残し守り伝える」ことをミッションにした「開発に頼らない持続可能な島づくり」という大きな総論に根ざした事業構築をめざしている。 地域活性化の戦略、メソッドが華やかな現在、あえて総論の議論に立ち戻り、地域に今必要な、あるいは次世代に引き継ぐために必要な「Something for Nothing」(何かのためではない大切なこと)といえる事業展開である。
橋立 達夫	はしだて たつお	作新学院大学経営学部	集落活性化を中心テーマとして、地域の方々とワークショップを行う中で、地域の課題を明らかにし、解決の方策を考える取組みを行っている。地域の中に秘められている活性化に向けての力に気づいていただくことにより、可能性が見えてくる。また、ワークショップを行う過程で、事業実施の機運と体制を作っていくことを重視している。
服部 敦	はっとり あつし	中部大学工学部都市建設工学科 / 大学院建設専攻	沖縄県北大東村、愛知県春日井市・名古屋市・豊川市、三重県四日市市、長崎県などの各地のまちづくり・地域活性化のプロジェクトで、産業振興、景観形成、低炭素・超高齢社会対応などの観点から企画、マネジメントに従事。 【主な取り組み】 ○沖縄県北大東村:総合計画・景観計画の策定、産地水産業強化の推進、文化的景観の保全・活用、伝統文化継承事業の推進など ○愛知県春日井市:高蔵寺ニュータウンの活性、遊休化した小学校施設の活用など ○愛知県名古屋市:遊休化した小学校施設の活用、運河周辺のアートによるまちづくりなど ○愛知県豊川市:すごろくを用いた中心市街地活性化イベントなど ○三重県四日市市:観光戦略の策定、観光まちづくりの推進など
服部 彰治	はっとり しょうじ	札幌大通まちづくり株式会社	政令指定都市の中心市街地において、初めて設立された「まちづくり会社」。まちづくりに貢献し、収益を確保する事業を実施し、自立的に運営を行っている。さらに、まちの新陳代謝を生むため、収益をまちづくりに還元し、まちの活性化に繋げている。平成23年12月には、都市再生特別措置法に位置づけられている「都市再生整備推進法人」に全国初で認定され、都市再生整備計画への提案、特例道路内での利便増進協定施設の運用などを行う。
服部 年明	はっとり としあき	有限会社 リテイルウォーク / 株式会社 全国商店街支援センター	① 02年から5年間長野TMOタウンマネージャー就任。大型空店舗が相次ぎ撤退した中央地域と、空洞化した善光寺門前の活性化に取り組む。まちづくり会社を設立し、地域住民の要望に応え、市と連携し大型空き店舗に公益の交流と子育て支援施設と直営の食品スーパーを開設、同時に500人を雇用するコールセンターを誘致した。次いで善光寺門前の連鎖する空店舗及び蔵、居宅を活用し、パティオ形式の商業施設を開設。同駐車場整備等5事業を事業化。一方で民間事業を誘発しまちなか居住、空店舗へのテナント誘致に取り組み、空洞化した中央地域再生の口火を切る。一方で後継のタウンマネージャー育成に取り組む。 ② 商店街支援センターにおいては、全国各地での地域商店街活性化活性化計画策定と事業推進の指導、支援にあたる一方で、個店の魅力向上と繁盛店づくり、次代を担う人材の育成に取り組む。 ③ 中活アドバイザーとして、伝道師として上越市、焼津市、沼田市などの中心市街地活性化計画検討の指導、助言にあたる。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
林 光一	はやし こういち	一般財団法人 地域活性化センター(兼務 一般社団法人移住交流推進機構)	<p>地方債協会時代では、全国で展開する地方債資金を活用した地域づくりに関する各種施設を取材してまいりました。平成3年から地域活性化センターでの地域づくりへのかかわりは、企画調査課時代での、自ら考え自ら行う地域づくり事業の事例収集整理などをはじめとして、冊子の編集、映像コンテンツの作成、新聞広報の取り纏め、自治体の各種計画づくりの支援、民間が実施する地域づくり活動への支援、人材育成プログラムの実施などに関わってきました。</p> <p>また、28年度には総務省が設置した首都圏から地方への移住を希望する国民を対象とした相談窓口「移住・交流情報ガーデン」で、移住希望者との相談業務を行いました。29年度下期からは総務省が「移住・交流情報ガーデン」に設置した「地域おこし協力隊サポートデスク」で地域おこし協力隊制度の活用に向けての相談業務を行っています。</p>
原田 弘子	はらだ ひろこ	マネジメントオフィスHARADA	<p>以下のような取り組みを通じて、自立可能なまちづくりを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コンセンサス形成 イベントや情報発信により、まちのブランドイメージを形成します。ワークショップを通じ、参加者の自発的な取り組みを誘発し、持続可能な取り組みにつなげる。</li> <li>●市民協働 NPOや市民、外部団体との連携により、活性化事業及び担い手を発掘し、活動を支援します。</li> <li>●民間事業開発 中心市街地活性化の取り組みと、企業、行政との利害を調整し、民間事業者等による中心市街地活性化事業を開発します。</li> <li>●開業支援 開業相談、ビジネスプラン作成、戦略的な空き店舗対策を企画立案</li> </ul>
平田 裕之	ひらた ひろゆき	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>学生時代、川下りのガイドをしていたことがきっかけで、水を蓄える巨樹にみせられ、日本各地を歩いていくうちに、環境とそれをささえる地域の人々に関心を持つようになりました。地元でNPOを立ち上げ、コミュニティガーデンの運営を行いつつ、NPO運営のサポートをして、現在に至っています。</p> <p>今の仕事は、現場から離れ、現場がうまく回っていくための仕組みづくりや、政策、組織運営に関する支援を行っています。全国にある環境パートナーシップオフィス(EPO)と連携し、地域の政策作りの支援をしたり、人や事例を紹介しています。</p> <p>平成25年度から環境省がはじめた「地域活性化を担う協働取組推進事業」の制度設計ならびに全国事務局の運営にかかわり、地域における様々な組織が、課題解決のための共通認識を持ち、具体的な行動に移るためのサポートをしています。</p>
福留 強	ふくどめ つよし	聖徳大学 / NPO法人全国生涯学習まちづくり協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大学と地域の連携によるまちづくりの連携</li> <li>②高齢社会の活性化の提案、「創年運動」の提唱</li> <li>③「子ほめ条例」のまちの推進、まち全体で子どもの健全育成</li> <li>④NPO法人全国生涯学習まちづくり協会での活動、まちづくりイベント、研修の企画、実施、地域の調査など、行政職員の研修</li> <li>⑤観光でまちづくり、着地型観光と指導者養成を実施</li> <li>⑥日本・韓国生涯学習まちづくり国際フォーラムの実施</li> </ul>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
藤崎 慎一	ふじさき しんいち	株式会社 地域活性プランニング	<p>◆「まちづくりはひとづくり」をキーワードに“よそ者、わか者、ばか者”を活用した住民参加型の自立型地域を目指す。一過性で終わらない継続的な活動を実現するために、ビジネス視点でのコーチングにより成果を上げていく。</p> <p>・【静岡県】「四季を通じて観光客を魅了する河津グルメ&amp;魅力発信プロジェクト」 河津桜で有名な静岡県河津町は、桜の季節に観光客が集中し、それ以外は閑古鳥だったことが大きな課題だった。認知度の向上をめざし、地元住民が自発的に情報発信を実行する体制を作り上げた。ドラマ『孤独のグルメ』で紹介されたご当地グルメ「わさび丼」をきっかけに観光客が押し寄せ、ドラマ放送までわずか2軒だったわさび丼が食べられるお店が15軒に急増。聖地化されることになった。さらに地元の「わさび」そのものが見直され、わさびを使ったグルメ開発で、平成27年4月、まちおこし集団が株式会社化した。</p> <p>・【静岡県】「富士宮観光戦略プロジェクト」 またB級ご当地グルメがメジャー化する前に、富士宮やきそば学会が、ご当地グルメ「富士宮やきそば」を観光資源として活用すべく立ち上がった際に、講師として招聘。地域人材を活用し、「資源発掘→ターゲット設定」という手順で、地元グルメを活用した観光街づくり一体化に向けたプロジェクトを成功に導いた。</p> <p>・【大分県】ロケツーリズム推進協議会設立で観光客UP! 2014年に放送されたNHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の影響により、同県中津市にある資料館に1年間で30万人もの観光客が訪れた。マスメディアへの露出が、観光に与える影響は大きなものであったが、県内にある市町村単位のフィルムコミッションや他関係団体が相互に連絡・協力を図る体制が確立できていなかったことから、「大分県ロケツーリズム推進協議会」を設立。ロケツーリズムの第一人者として招聘を受け、マスメディアの効果的な活用方法について、各団体に所属する職員へと向けた人材育成を実施した。</p> <p>・【千葉県】成田空港ブランド戦略会議 「成田空港をブランド化へと向けたPR戦略と、情報発信体制の造成アドバイザー」。 成田ブランドを伝える自立した情報発信組織「成田空援隊」を結成し、官民が一体となってロケ誘致を行いシティプロモーションへと繋げる仕組みづくりに導いた。また新たな特産品「成田ソラあんぱん」の開発に携わり、成田市女性職員を中心とした広報担当「成田ソラガール」を結成し、成田市のみならず都内、そしてアメリカ・ロサンゼルスでのPRイベントも成功した。</p> <p>・【東京都】「映像作品著作権活用ワーキンググループ」 映画やドラマの撮影実績を、まちのプロモーションに活用すべく、都内の行政担当者と一般企業へと向けた勉強会の開催。映像業界の現状と需要から交渉ノウハウまでを指導。</p>
藤田 勲	ふじた いさお	一般財団法人 神成文化の森 藤田財団 / 藤田株式会社	<p>【球磨人吉 地域づくり委員会】 平成27年5月18日 球磨・人吉が、相良が生んだ保守と進取の文化、日本でもっとも豊かな隠れ里人吉球磨として日本遺産に熊本県で認定第1号となりました。より多くの人達が人吉球磨に来て頂けるよう、官民一体となった地域づくり、木の文化を全国、世界に発信する初めてのモデルになるよう、「日本、木の文化と地域づくり」を人吉球磨の各市町村の民間、行政、政治家、宮司、住職の皆さまにご出席いただき、開催をいたしました。</p> <p>【ラオスフェスティバル2015】 平成27年5月23日～平成27年5月24日 東京都渋谷区代々木神園町 代々木公園イベント広場でラオスフェスティバル2015が開催されました。藤田勲もラオスフェスティバル実行委員会の副会長、主催者の一人として参加し、ラオス外交関係樹立60周年記念のお祝いヒメザクラ(看板)高さ2.2m、高さ1.8mの計2枚をお贈りさせていただきました。また伝道師として実行委員会の皆さまへ日本、木の文化の素晴らしさをお伝えをさせていただき、本桜の拍子木もお贈りさせていただきました。日本、木の文化とスポーツ文化の振興を日本、そして世界に向けて力を入れ発信してまいります。</p>
藤田 とし子	ふじた としこ	まちとひと 感動のデザイン研究所	<p>1) 戦略的情報発信事業による、まちのにぎわい創出 &amp; 回遊性の演出 ・「情報の受け手」である市民・消費者を「情報の発信者」に！を合言葉に、市民参加型まち歩きMAP＝【ペーパー版facebook】プロジェクトを各地で展開しています。 ・市民有志が自ら住み慣れたまちなかを歩き調査し、集めた情報を自身の言葉でMAPに纏ることで、既成のマップと差別化。情報の受け手の共感→共振→感動のスパイラルを醸成し、「訪れて楽しいまち」のイメージ形成へとつなげていきます。</p> <p>2) まちのブランディングと新たな担い手の育成 ・地域の多様な主体の参加によるワークショップを開催。地域の現状・特性の把握を行い、「このまちならではの」魅力発見と地域活性化の手法を皆で見出し、まちのブランディングへとつながる事業を展開していきます。 ・事業展開の過程において、地域活性化の新たな担い手を見出し、地域ぐるみで育成していく「しくみ」と「ネットワーク」の形成にも、力を注いでいます。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
藤村 望洋	ふじむら ぼうよう	早稲田エコステーション研究所 (ぼうさい朝市ネットワーク)	<p>災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しく救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設置したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。</p> <p>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「福興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「福興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸福興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。</p> <p>瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。</p>
古川 康造	ふるかわ こうぞう	高松丸亀町商店街振興組合	定期借地権の導入で「土地の所有と利用の分離」をはかり、まちづくり会社によるエリアマネジメントを実践し、衰退した中心市街地の商店街再生に取り組んでいる。
古川 直文	ふるかわ なおぶみ	株式会社 楽市白河	中心市街地活性化法(旧TMO)の設立から街づくりに参加。街づくり会社 株式会社楽市白河設立から現在まで運営及び事業立案・事業実施を行っております。街づくりに関するハード・ソフト事業の立案や調査等また、イベント事業の立案を得意分野とします。
古野 克彦	ふるの かつひこ	株式会社 にぎわい総合研究所	<p>「にぎわいをプロデュース」する会社をめざしています。</p> <p>今まさに、地域からの創生力と発信力、地域の暮らし方が問われています。地域の人々の生きがいづくりでの活性化、観光活性化、集客催事、景観づくりという地域創生の視点から見直しの必要性を感じています。新しい取り組みを地域の人たちと一緒に創りあげ、地域内外の人たちが享受するために、誠実に実行できるチームをつくりあげて、楽しいプロジェクトしていきます。</p> <p>地域に根付いている資産を、新しい時代にあわせてリノベーションしていくことが、地域ブランドに繋がっていきます。</p> <p>自治体業務を中心に活動しており、愛知県の瀬戸市、安城市、豊川市、半田市、春日井市、稲沢市ほか、静岡県では、静岡市、袋井市、南アルプス山麓地域などにおける、観光活性化やブランド創生などの調査、企画、プロデュースに携わっています。</p> <p>また、市民グループにより立ち上げた「愛知戦国甲冑隊」は、総勢300人ほどの団体に愛知県内各地の地元催事などに出演し「にぎわいおこし」活動を続けています。</p>
星野 智子	ほしの ともこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NPO活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。</p> <p>地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体が開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネートは今では全国で見られるようになった。</p> <p>安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。</p>
本田 節	ほんだ せつ	有限会社 ひまわり亭	<p>1998年に、地域のボランティアグループ「ひまわりグループ」のメンバーと共に地域の主婦たちによる地産地消の農村レストランを立ち上げました。</p> <p>「もったいない」をキーワードとし、地域の財産ともいえる「おばちゃん・おばあちゃんの知恵・経験・技・感性」を活かさないのは「もったいない」、地域の素晴らしい食材を活かさないのは「もったいない」、取り壊し寸前の築120年の古民家が「もったいない」、ということで古民家を移築したお店を拠点に地域の素材を出来る限り活用し、安心安全な食を提供しています。</p> <p>また、「食」を通して、地域づくりへの貢献や食育活動、女性の起業アドバイスにも力を注いでいます。</p> <p>さらに、2002年頃からは、グリーンツーリズムの推進にも積極的に取り組んでおり、地元地域を巻き込んで「広域連携によるグリーンツーリズム実践」を推進しています。</p> <p>日本各地、さらには韓国等国外からの視察研修を受入れており、学生のインターンなども積極的に受入れております。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
前神 有里	まえがみ ゆり	愛媛県保健福祉部長寿介護課	虐待対応に行政が責任を持って権限行使できるよう背中を押すサポート体制を官民協働でつくり、ケース会議への専門職派遣や研修など自治体や対応機関からの相談に応えています。 総務省の人材力活性化研究会での人材力活性化プログラム・カリキュラム作成、施策の検討、研修講師などの実績と、自治体職員28年の経験があり、自治体や地域に寄り添いながら人財育成のサポートをします。 また、伴走型支援や異分野・広域・遠隔地の連携による新たな価値づくりが得意で、課題解決から入るのではなく分野を超えて交えていく手法や、まきこむのではなく共感で集まるやり方で進めていきます。 その他、研修講師として全国に出講しています。
牧 昭市	まき しょういち	まちづくりプラン研究所	1. 中心市街地におけるエリアマネジメント事業展開 2. 都市経営に基づく中心市街地のグランドデザイン策定 3. まちづくり会社の設立及び運営(自立経営に向けた体制作り) 4. 商店街区でのデータマーケティングを活用した官民連携のテナントミックス事業展開 5. まちづくり会社が取り組むべき事業の立案
益本 圭太郎	ますもと けいたろう	-	まちづくりの多くの事例に触れたほか、防火・防会知識の普及、特に民間防火組織の活動のあり方に取り組んできた。
町田 直子	まちだ なおこ	特定非営利活動法人 ACTY / 株式会社ACプロモート	NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめる、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参画できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ着地型体験の旅行商品を造成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。
松井 洋一郎	まつい よういちろう	岡崎まちゼミの会	中心市街地、商店街において当地にあった有益なソフト事業の提案、事業実施のアドバイスから活性化への気運創り、新たな人材育成、リーダー創出の取り組み。
松浦 忠雄	まつうら ただお	株エム・シー・オー	□株エム・シー・オーは地域振興と企業経営のお手伝いをさせていただいている会社です。 □(独)中小企業基盤整備機構の中心市街地サポートマネージャーは地域活性化支援のプログラマーです。 主な活動範囲は ①地域活性化への合意形成支援(組織づくり、事業推進体制の構築、活性化事業の精微、人材育生 他) ②商業施設の開発・運営支援(立地戦略、事業計画づくり、運営マネジメント 他) ③商店街再生支援(コンセプトづくり、空き店舗対策、新規創業者支援 他) ④販路開拓などのマーケティング支援(商品開発、販路開拓、販促 他)
松場 登美	まつば とみ	(株)石見銀山生活文化研究所 / (株)他郷阿部家	石見銀山生活文化研究所では衣・食・住のデザインに取り組み、衣においては国内の素材と加工にこだわった商品の企画製造販売、食においては、石見銀山で発見した梅花酵母菌を生かした商品開発や飲食店の経営、住においては以下のような古民家再生を行っている。 地元大森町で約20年にわたり民家再生を行い、町内に8軒、移築1軒の古民家を再生。東京・西荻窪の昭和初期の民家再生と活用。
松橋 京子	まつはし きょうこ	坐忘林	*ホテル・旅館の再生と立ち上げ(ホテル甘露の森=北海道二セコ町、みなかみ高原リゾート200=群馬県みなかみ町、定山溪鶴雅リゾートスバ森の調=北海道札幌市、坐忘林ZABORIN=北海道倶知安町花園)*富裕層向け旅館のおもてなしオペレーションサポート*北海道の素材を使った高品質の消費開発と「ものづくり」*地域と地域をつなぐ視察や観光のビジネスモデルの構築

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
政所 利子	まんどころ としこ	株式会社 玄(げん)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域/環境計画・総合プロデュース 地域計画・環境計画・公共事業・事業計画・産業活性化計画の総合プロデュース</li> <li>2. 地域ブランド・国産ブランド/商品開発・商品企画/人材教育 プロダクト・プランニング・ビジネスプロデュース・メディア計画</li> <li>3. 地域PR・SP計画の企画制作 SP企画、マーケティング計画、メディア計画、総合コミュニケーションプロジェクト</li> <li>4. 行催事の企画制作・実施/海外向け地域ブランドPR事業の企画制作 イベントのプランニングからのプロデュース、実施</li> <li>5. グラフィック・エディトリアル・映像・立体デザインの企画制作 SP・PR・コピー編集、デザイン、展示映像制作等のマルチメディア企画</li> <li>6. 都市計画・地域計画・事業計画に関わるソフト事業の企画・設計と運営管理 地域計画に関連する人材教育の各種ツール制作、快適環境整備等のソフト事業設計</li> <li>7. 和學塾食会議事務局 国産食材のPR事業を通じて国内農産品生産地の活性化と次世代の後継者づくりに貢献します。</li> </ol>
水谷 翔太	みずたに しょうた	天王寺観光協議会	<p>○大河ドラマ「真田丸」放送に合わせた天王寺区内のまちづくりの推進</p> <p>○他、メディア、区政運営の経験を活かした講演活動、各種団体・地域のコンサルティング</p>
水野 正文	みずの まさふみ	郡上大和総合開発株式会社	<p>1993年から古今伝授の里づくりに関わり、和歌文化の拠点施設「古今伝授の里フィールドミュージアム」をオープン。1999年「やまと温泉やすらぎ館」の立ち上げ、営業指導を行い雇用創出、福祉向上を図る。2001年「くつろぎ広場」、道の駅をオープンさせ、特産品開発、販売サービス、営業管理指導を行い、若者、女性の働き場を創出。2005年に東海北陸自動車道「ぎふ大和PA」内にサービス施設をオープンさせ、高速交通網を活かした特産品の販売拠点を整備。4施設を3セクが経営管理。その利益から順調に開発型インターの建設負担金6億9百万円を償還。2007年から国の地方の元気再生事業により「郡上長良川源流の森と川の恵み集落再生実証事業」に取り組む。国内では、三重県、福井県、徳島県、島根県、鳥取県、広島県等でまちづくり、3セクの経営、特産品開発、観光振興等の講演活動と共に現地研修受入指導、ベトナムにおける国道の道の駅管理運営指導を行う。</p> <p>NPO法人コミシス郡上の監事として、福祉、教育活動を行う。</p> <p>現在は、郡上市役所を早期退職し、まちづくりを行う第三セクターの代表取締役として、経営管理を行っている。</p>
御園 慎一郎	みその しんいちろう	大阪大学/地域活性学会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の概要を学ぶ</li> <li>・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。</li> <li>・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。</li> <li>・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を発案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。</li> <li>・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。</li> </ul>
三石 秀樹	みつし ひでき	株式会社 飯田まちづくりカンパニー	<p>民間主導の再開発支援を一つの目的とするまちづくり会社の立ち上げから関わり、飯田市の再開発をサポートし、マンションの分譲、店舗を買い上げリーシング、建物の管理業務、管理組合の運営を請け負いました。その他ハード事業では、古い土蔵再生生活用、空店舗の「所有と利用の分離」手法での活用、市街地ミニ開発、福祉施設の経営、物販飲食事業等々を行っています。ソフト事業では、NPO、市民団体支援。りんご並木を中心とする歩行者天国イベントを年間実施。飯田市の環境モデル都市事業への協力等、環境事業にも取り組んでいる会社を運営しております。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
三宅 定子	みやけ さだこ	うの港(ポート)13(サーティーン)	平成19年7月、女性の視点から岡山県玉野市・宇野港の活性化や瀬戸内のみなとまちづくりネットワークの施策、瀬戸内の島々を訪れる観光客の集客を図るため異なる業種で活躍する13人の女性と共に「うの港13」を設立。平成19年～22年、岡山県へ緑地整備事業の施策を提言し、また観光事業に関する講演会やフォーラムを開催した。平成22年～平成23年、玉野市中心市街地活性化協議会みなと部会を設立し、宇野港の賑わい創出づくり・宇高航路フェリー問題を行政へ提言した。また宇野港の魅力をPRするため手作りで歴史散策マップ(日本語版と英語版)を作製した。平成24年～平成25年、九州地方、近隣県で地域の賑わい創出をテーマに講演した。平成27年、おかやまビーチスポーツ協会を設立し、会長に就任。ビーチスポーツを通じた地域活性化に取り組んでいる。平成28年1月、2018年国際ソクタ世界大会(横浜)大会委員長に就任。JNTO(日本政府観光局)等と協力し準備にあたる。平成28年3月～11月の「第3回瀬戸内国際芸術祭」の開催にあたっては宇野港「連絡船の町」をメインにアートのまちづくりを図った。
向井 哲朗	むかい てつろう	彦名地区チビッツ環境パトロール隊・NPO法人エコパートナーとっとり	「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビッツ環境パトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃天ぷら油の回収がスタートした。この活動は、現在、障がい者施設の皆さんとBDF製造にまで発展している。全国で初めての試みでもあった使用済み割り箸を回収し製紙工場と協働して紙再生への取組みについて問題提起。鳥取県米子市で地元のホテル温泉街に協力を呼び掛けて始まった本取組みは、今では地域全体での取組から、更には全国区の事業にすることができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動をする覚悟を覚れば、地球温暖化防止への道は近い。25年以上に渡って継続している割り箸・廃天ぷら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。廃油ローソク作り・牛乳パックから手づくり葉書づくり・環境パトロール・廃パスト等を活用した生活排水浄化方法・メダカ/ホテル観察会・水鳥観察会等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動・環境を基軸にした協働の街づくりの継続実践をしている。
村上 和子	むらかみ かずこ	NPO法人神戸グランドアンカー	1)みなとの遊休倉庫の再生利用で、文化交流施設「神戸波止場町TEN×TEN」の企画運営。2)神戸港の親水ゾーンの人の賑わい創成へ向けた取り組み。3)瀬戸内みなとオアシスの活性へ向けた取り組み
村上 一成	むらかみ かずなり	一般財団法人「希望日本投票者の会」	平成15年度創刊の「まちづくり新聞」編集長に約5年間就任。全国のまちづくり事例の取材を行う。現在、PPP(公民連携)テーマに特化したシンクタンクで、地方自治体対象のコンサルティングなど。
森田 潔	もりた きよし	一般社団法人 神戸港振興協会	①地域の様々なイベントの実施 ・神戸港カッターレース～横浜・大阪・広島・南淡町・豊岡市など 全国のカッターレースに実施要領を提供し各地で開催されるようになった。 ・メリケンフェスタ、みなとこべ海上花火大会、Kobe Love Portみなとまつり、KOBE みなとマルシェ、波止場まつり、神戸港フオークリフト荷役技能向上大会、神戸まつりヨットレース、神戸港ポート天国、ロープワーク教室、ボトルシップ教室、市民クルージング、体験航海、進水式見学会など ②産業観光への取組み ・コーディネーターとして案内したり、旅行商品となりうるものの発掘 ③クルーズ客船や帆船の入出港の歓送迎や船内一般公開の実施 ④海人材の育成 ・県下の小・中学校への出前授業や船を使った海上からの港の見学等
森山 明能	もりやま あきよし	七尾自動車学校/株式会社御祓川	故郷である石川県七尾市をベースに、民間まちづくり会社のシニアコーディネーターとして地域や企業の担い手の挑戦をサポートしています。地域ネット商社機能/インターンプロジェクトの開発・マッチング・実施運営/クラウドファンディング募集サポートなど複数の支援メニューを組み合わせて「マチ・ミセ・ヒト」の関係性の再構築を目指しています。特に、「能登留学」では、これまでに200名を超える大学生(内、長期100名超)と地域の企業/組織をつなげ、受入先の改革・活性化を支援すると共に、若手人材の地域誘致に結びつけて来ています。また、上記のサービスについて効率よく利用してもらうことと地域の人財育成を組み合わせたプロジェクトとして、2015年10月からはコミュニティ大学「御祓川大学」の運営もスタートしました。近年は、能登と首都圏の人や組織を結びつけて実施するプロジェクトのコーディネートに多く携わっています。具体例として、丸の内朝大学では、地域プロデューサークラス受講生受入をきっかけに能登島地区の若手経営者・公務員・漁師などが集まったコミュニティ組織「能登島観光協会青年部」の発足に携わりました。同組織が主催しているコミュニティ型観光プログラム「うれし! たのし! 島流し!」はリポート率6割を超える人気プログラムに成長し、能登島の地域づくり人財の育成と東京における能登島コミュニティの醸成に繋がってきています。このように七尾自動車学校(家業)も含めた地域内での活動をベースとしつつも、能登のトライセクターリーダーとして活躍していけるよう、能登/首都圏、民間/行政、公/私などの隔たり無き活動を行っています。



氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
矢口 正武	やぐち まさたけ	NPO法人 元気・まちネット	多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。 元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。 また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。
安井 潤一郎	やすい じゅんいちろう	NPO法人全国商店街まちづくり実行委員会	環境を切り口とした商店街活動に取り組み、「ごみからまちおこし」として注目を浴びる。 何も無い早稲田の町に日本中の修学旅行の生徒が見学に来る、「ごみ減量リサイクル」が「震災対策事業」「地域通貨事業」「まちづくり」へと進化し、定住人口が増加という奇想天外な「まち場」の活動を展開中。
山下 雅司	やました まさし	有)ヤマイチ山下総業/独)中小機構基盤整備機構北海道本部	(1)全国商店街支援パートナーとしての受託業務 ①トータルプラン作成支援事業(プランづくりコース) ・網走中央商店街振興組合(平成25年度～平成26年度) ・粟山駅前通り商店街(平成26年度) ・根室市緑町商店街振興組合(平成27年度) (2)経済産業省補助事業に係る調査事業 ・平成26年度北竜町商業自立促進調査分析事業(ニーズ調査) ・平成28年度根室市地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・平成28年度森町地域まちなか商業活性化支援事業(ニーズ調査) ・平成28年度斜里町伴走型小規模事業者支援推進事業(ニーズ調査) (3)道の駅に関する経営診断 真狩フラワー振興公社・美深町双子座館 (実態調査)滝川市・中札内村・大樹町・忠類村 (4)地域振興計画の策定 清水町・北竜町・余市町・芦別市・栗山町・初山別村・幌加内町他
山下 真輝	やました まさき	株式会社ジェイティーピー 旅行事業本部 観光戦略室	これからの「観光」は、異業種・異分野の人びとや様々な産業を融合することによる新しい価値創造の「場」として、取組まなければならないと考えています。新しい時代の観光振興は、宿泊施設、交通機関、観光施設等の狭義の観光産業による観光振興ではなく、様々な分野の産業を連動させ、現代社会の消費者が求める価値をつくり出すための連携の場をつくり出す必要があります。地域の未来を考えている住民の方々とのワークショップやセミナーを通じて、地域の目指すべき姿や観光地域づくりのコンセプト探しを行っています。更には地域のコンセプトに沿ったシティプロモーション戦略、着地型旅行商品づくり、地域資源の6次産業化など観光を基軸とした地域活性化に取り組んでいます。最終的に様々な事業を推進するリーダーシップ人材の育成が不可欠であり、立場や自分の利害を超えて行動することができる観光地域づくり人材の育成もサポートさせていただきます。全国各地の観光地域づくりに関わってきた経験と常にマーケット動向を見ている旅行会社の視点を持って、地域活性化に取り組んでまいりたいと思います。
山田 桂一郎	やまだ けいいちろう	JTIC.SWISS	これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。 政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊することがありますが、それさえも乗り越えてきました。 多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。 このような状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組む必要があります。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域の生き残りを皆さんと一緒に真剣に考え、実践しています。
山中 守	やまなか まもる	国立大学法人 熊本大学	情報化社会が進めば進むほど、東京と地方との格差が拡大してきております。本来、情報化は地方が元気なる手段です。情報化をアイデア豊かに活用することにより、地域経済は再生します。これまでの取り組み実績を踏まえて、地域再生を実践していきたいと思っております。 詳しくは、上の欄に書いております著書をご覧いただければ、新しいアイデアによる地域再生の方法について具体的に説明してまいりますのでご理解いただければと思います。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉井 茂人	よしい しげひと	長浜商工会議所／長浜まちづくり株式会社	<p>昭和53年・57年の広域商業診断を担当。</p> <p>昭和60年・平成3年に商業近代化地域計画や市街地核再生プロジェクト構想(曳山博物館建設)を担当する。</p> <p>昭和62年より各商店街のCI事業、将来計画策定をすると共に、各商店街ハード・ソフト事業の具現化に携わる。平成9年度 空き店舗対策モデル事業・プラチナプラザ立ち上げ。平成10年度からは中心市街地活性化基本計画、TMO事業構想策定および事業の具現化を図る。平成16年～平成19年3月まで大型空き店舗活用「まち家横町」開設運営。</p> <p>平成18年度より改正まちづくり三法対応に取り組み、平成20年1月に中心市街地活性化協議会設立、運営を行なう。</p> <p>平成21年4月よりまちづくり会社設立準備室において作業を進め、平成21年8月10日に「長浜まちづくり株式会社」を設立。平成21年～23年、中心市街地活性化事業支援。</p> <p>現在、長浜駅周辺整備地区計画策定に地元の人と取り組んでいる。</p> <p>昭和59年から全市的なイベントに係わると共に昭和62年～平成2年 長浜総おどりのプロデュースを行なう。商工会議所入所以来、賑わい創出のイベントを仕掛ける。多種多様な事業の具現化により、今ではゼロから200万人の人々に来ていただけるまちに変化した。また、商店街内の80件余りの空き家、空き店舗の活用が生まれた。</p> <p>過去の中心市街地は雑多な複合機能が有り、ヒトとモノとコトと情報の集積場で都市魅力を備え繁栄していた。しかし、郊外開発が進んで郊外への重心移動が始まったことで中心市街地は単一機能となり、徐々に衰退傾向となった。大型店の出店申請が重なり中心市街地は死んでしまうのではないかという危機感が生まれた。官民ともに何とかしなければという気運が高まった。</p> <p>現状の打開には方向性を示すプランが必要で、プラン策定には垂直型から水平型思考への転換が必要であった。絶えず都市活性化という視点を持ち、時代の節目節目に方向性の計画を示すと共にプラン具現化の仕掛けを行い、また現場に出ることによって地元の人々と意思疎通を図り、イベント・CI事業・商店街毎のプランそして事業の具現化を順次図った。それらの事業は黒壁のダイナミックな事業展開との相乗効果を生み、点・線、そして面的な広がりのある環境整備ができた。</p> <p>中心市街地の環境基盤整備とイベントを中心とした賑わい創出事業を生み出すことにより入り込み客数は飛躍的に増加し(ゼロから200万人)、中心市街地の空き家・空き店舗の80件余りがショップや施設に転換された。</p> <p>平成24年4月からは北大路魯山人ゆかりの歴史的建築物安藤家の管理運営を行なうと共に伝統的町家を長浜バイオ大学まちなか拠点施設として開設を行なった。さらに賑わいを持続させるために様々な事業に取り組んでいる。</p> <p>平成26年からは、中心市街地内の伝統的木造家屋活用のシェアハウス運営を行なっている。</p>
吉田 敦也	よした あつや	徳島大学大学院／地域創生センター	<p>取組内容</p> <p>フューチャーセンターの構築、経営、運用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フューチャーセンターを活用したデザイン思考ワークショップ、イノベーション創出</li> <li>・フューチャーセンターの運用のための人材育成、企画開発、コンサルティング</li> </ul> <p>地域創生の観点からの地域ICT課題解決と生涯学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育の支援。特に、ICTリテラシー形成と利活用の支援による地域情報化の推進、コミュニティビジネスの創出支援、地域コンテンツ制作支援、高齢者向けインタフェースの開発、コミュニティテクノロジーの開発、まちづくり支援、シニアネット構築支援、iPhoneアプリの開発、地域電子ブック開発、ITを活用した学校支援地域本部コーディネートシステム開発など。 <p>実践実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人いきいきネットとくしま理事長(シニアICTリテラシー形成支援活動、会員約270名)</li> <li>・総務省事業「とくたー ー地域商店街の横丁機能を基盤にしたスマートフォン高齢者見守りシステムと人材育成プログラム開発」事業プロジェクトリーダー</li> <li>・文部科学省「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業(徳島大学イノベーション対話促進プログラム)」プロジェクトリーダー</li> <li>・徳島大学フューチャーセンターABAディレクター</li> </ul> </li></ul>
吉野 裕之	よしの ひろゆき	一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団	<ul style="list-style-type: none"> <li>* NPO・市民活動の支援</li> <li>とくに資金支援を中心に、NPO・市民活動の支援を行っている。</li> <li>* 調査・研究</li> <li>NPO・市民活動推進の観点から、まちづくりについての調査・研究を行っている。</li> <li>* その他</li> <li>NPOの交流会、NPO・市民活動推進のためのシンポジウム・研修会の企画・運営などを行っている。</li> </ul>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉見 精二	よしみ せいじ	地域観光プロデュースセンター	<p>「地域は観光に頼らなければやっていけない！」とも言われています。とくに、地方は人口減少など直面する課題、時代の流れをどう受け止めるのか。しかし、地方には「文化がある自然がある」ことを活かした成功事例が多く見られます。全国のどこの地域でもがニュー観光地となる可能性があります。観光の魅力は人との感動の交流です。地域の人たちが主役になる観光が「ほんものの旅」です。みなさんの地域には宝物が溢れています。いっしょに探してみませんか。ニューツーリズムを通じて地域が元気になるお手伝いをいたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流事業支援アドバイザー～地域観光創造・着地型観光実践ドウタンク</li> <li>・地域力創造支援アドバイザー～まちづくり・地域活性化・地域の元気再生</li> <li>・DMO組織化支援コーディネーター～地域の新しい観光戦略にDMOの構築</li> </ul>
若新 雄純	わかしん ゆうじゅん	慶應義塾大学	<p>なにが正しいのか、だれの言っていることがまともなのかよくわからない成熟した社会環境の中で、世代や価値観の異なるさまざまな人々が立場や役割を超えて関わりあうことができ、「新しい何か」を創作できる創発的なコミュニケーションの仕組みづくりや場作りを研究しています。</p> <p>例えば、大人と子ども、男性と女性、専門家と素人といった対象的な人々が、だれかを「先生」に仕立てあげることなく、自由で対等な空間で一緒に議論や活動ができるような、やわらかくひらかれた環境をつくり続けています。</p> <p>最近では、地方のまちに、都会からの移住者などいわゆる「よそ者」がゆるやかに溶けこんでいくための政策などにも興味を持って取り組んでいます。</p> <p>巷ではそれを「オープン・イノベーション」と言ったりするようですが、いきなり「つくる」というプロセスにばかり注目してしまうのではなく、まずはこれまでであった常識や価値観、仕組みを疑ってみて、ときには手放したり、ゆるめたりすることを重視して活動しています。</p>
若松 進一	わかまつ しんいち	人間牧場	<p>双海町役場に在職中、瀬戸内海に沈む夕日に着目し、日本で一番海に近いJR下灘駅で開催した夕やけプラットホームコンサートが話題を呼び、夕日をテーマにした数々のまちづくりを行なった。海辺の海岸を埋め立ててシーサイド公園を整備した。450mの人工砂浜、特産品センター、夕日のミュージアム等には、年間55万人の観光客が年間を通じて訪れている。</p> <p>第三セクターを設立して運営しているが開業以来黒字経営をしている。</p> <p>海岸国道を「夕やけこやけライン」と名付け、町のキャッチフレーズも「しずむ夕日が立ちどまる町」として積極的にまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>海岸国道沿いには水仙や菜の花が咲くなど地域ぐるみで花咲くまちづくりを展開している。</p> <p>JR予讃線にこの夏「伊予灘ものがたり」という観光列車が走る予定である。</p> <p>まちづくりを推進する「まちづくり学校双海人」も活動している。</p> <p>年間100日以上全国各地へ出向き講演や指導に当たっている。</p>
渡邊 法子	わたなべ のりこ	アイ・エス・ケー合同会社	<p>地域特性を活かしたまちづくり(地域資源の再発掘・活用)</p> <p>地域の人材発掘、育成地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業</p> <p>着地型観光事業(基盤の整備構築)</p> <p>ローカルエリアプロモーションビジネスの事業化</p> <p>インバウンド(訪日)観光事業</p>